FOR ALL THE MOTORCYCLE, CAR & MUSIC LOVERS

The Enshu Siast Magazine

TAKE FREE!

エンシュージアスト

2021 / Vol.5

遠州の風を感じて。



FEEL THE WIND

4xC CONTAINER BASE AT CAINZ

4xCのモデルハウス
[CONTAINER BASE]が
カインズ浜松雄踏店に移転





あなただけのコンテナ

[NAKED]
¥450,000
(with TAX)より


MORTAR ART


CAFE


HALF BUILD


WOODEN


FULL BUILD

ACCESS

CAINZ Yuto Parking
カインズ浜松雄踏店パーキング
浜松市西区雄踏1丁目32-1
営業時間/10:00～18:00
定休日/毎週水曜日





KITCHEN CAR & EVENTS

キッチンカー・イベント出店も
開催しています。

出店者募集中!

お問い合わせはフォーバイシーまで ……▶

｜4xC 代理店事業スタート｜
オーナー募集
詳しくはフォーバイシーまで

4×C CONTAINER
株式会社フォーバイシー
〒431-0101
静岡県浜松市西区雄踏町山崎6265-1
TEL：053-489-3113
MAIL：info@4xc.jp
4xC Instagram

FEEL THE WIND

遠州の風を感じて。

最近、いろんな場面で「我慢する」ことが
増えているように感じます。
自分だけでじっと「考える」ことよりも、
「感じる」ことが、新しい道にきっとつながるはず。
ライディングウェアを身に纏い、ヘルメットを被ったら
そこはもうライダーだけが得ることのできる歓びの世界。
さあ、もう何も悩むことはありません。
今こそ、風を切って出掛けましょう!



難波祐香
YUUKA NANBA
元GPライダー・チーム監督である父に影響を受け、小さい頃からバイクで遊ぶのが大好き。声優としてアニメ・ゲーム・ラジオに出演。バイクイベントではMCやゲストとして活躍中。愛車はヤマハSRV250。
twitter:@nyanba_youka
Instagram:nyanba_youka

The EnshuSiast Magazine



VOL.5 CONTENTS

EnshuSiast Profile「遠州の熱中人」…… 06

特集・1 NO EAT , NO RIDE!
遠州を食べ尽くせ!
エンシュージアスト厳選、ツーリング先で寄りたいグルメ&ドリンク・イチ推しメニュー! …… 08

特集・2 Right Place, Right Time
YES, IT'S MY LIFE! Enshu Siast's Choice!
エンシュージアストが厳選した、最高のライフスタイルを持つ「生き方の達人」たち …… 17

特集・3 遠州企業の新たなる挑戦。
ものづくり精神と創造力が生んだ、ユニークかつアグレッシブなメッセージ。…… 27

私を月に連れてって!!
「デイトナDE01で月までボタリングするのだ!」の巻 …… 40

六間道路グランプリ 歴史の目撃者たちによって 今、その真実が明かされる・・・ …… 43

エンシュージアスト経営学　株式会社デイトナ
社員が自ら積極的に行動して、「新しい何か」を見つけ出せれば一番いい。…… 48

遠州の銘品「株式会社鈴木楽器製作所　スズキメロディオン」 …… 52

神と呼ばれるエンジニアが提唱する新しいライブ音楽の楽しみ方「SSM」とは? …… 54

ENSHUSIAST INFORMATION …… 56

ENSHUSIAST PRESENT　音楽コラム ～「ドはドーナツのド」 …… 58

コラム ～ Roads like Chords「なかなか進まない旅」 …… 60

GS偏愛コラム ～ Good Day Sunshines …… 62

EnshuSiast Friendly Shops …… 64

From Editors ～ 編集後記のような話 …… 65

コラム～ 喫茶ゆるはま …… 66

AD INDEX（50音順）

有限会社オグショー…P.16、川島モータース…P.47、株式会社クシタニ…P.39、 ざいまかなきぶん…P.57、
株式会社サンガ…P.67、しんしろカートコース…P.61、フォーバイシー…P.02~03、マンブルズ・どんぐり食堂…P.59、
望月自動車商会…P.53、ヤマハ発動機株式会社…表4

The EnshuSiast Magazine Vol.5
2021年11月30日発行

Publisher : Hiroki Yamakawa　Editor : Satoshi「TEXAS」Ohnuma
Editorial Staff : Don U1 Sahara, Agito Ishizuka, Katsumi Matsushita,
Takuya Hiramatsu, Yamasan Yamakawa, Kosuke Ogusu, Takumi Watanabe
Photo : Hidekazu Kurumiya, Taketoshi Kurebayashi, Masahiro Furuhashi, Takumi Watanabe
Text : Texas Ohnuma, Don U1 Sahara, Agito Ishizuka, Yamasan Yamakawa, Katsumi Matsushita
Illustration : STINK SIGNS, Watataku



発行：有限会社キーウエスト クリエイティブ
〒430-0928
静岡県浜松市中区板屋町101-22　エンシュージアスト編集部
TEL：053-450-0222　FAX：053-450-0225　mail：info@key-w.com

印刷：東海電子印刷株式会社

表紙 Model : Yuuka Nanba　Photo : Taketoshi Kurebayashi
Wear : KUSHITANI

29 Racer



Takumi Fukuda






チャンピオンを目指して挑戦する若きレーサー。

江西中学校3年　福田琢巳

福田選手が初めてバイクに乗ったのは3歳の時。まだ自転車は補助輪付きだったが、姉のバイクレースを見て、自分も乗りたいと走り出した。キッズバイクからスタートし、小4でミニバイク、小5で全国大会ジュニアクラス11位と頭角を現す。現在はK-MAXレーシングに所属し、NSF250で地方選手権GP3クラスを戦う。憧れはロッシ選手と語る15歳は身長170cmを越え、もはや250ccも小さく見える。今の目標は国際クラス昇格と全日本チャンピオンを獲ること。放課後は「モトサービスEDGE」でメカニックの指導を受け、自らマシンの整備もする。いつか世界を夢見る遠州の若きレーサーの挑戦に、大いに期待したい。

連絡先／モトサービスEDGE
浜松市南区卸本町82　TEL.053-424-8586

28 Farmer



Kan Hasegawa






何かを生み出していくにはこれ以上の「場」はない。

「グラニーズ バーガー&カフェ」店主　長谷川 乾

都内にあるIT関連の会社を辞め、海外へ放浪の旅に出た。帰国後、農業に適した移住先を探して2年、ふと出会った浜名湖畔の物件に一目惚れして浜松市北区三ケ日に移住。それから縁あって「グラニーズ バーガー&カフェ」の店主に。「しばらくはここを起点として、三ケ日の活性化に役立ちたい。私を受け入れてくれたこの土地への恩返しにもなるし」と語る。今後は地場の産物を使ったメニューをつくり、これまで以上に地元との深い繋がりを持つことが目標。土壌や季候等の環境を含め、「新しい何か」を生み出していくにはこれ以上の「場」はない。

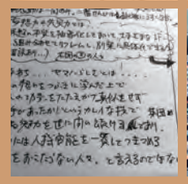
グラニーズバーガー&カフェ
浜松市北区三ヶ日町三ヶ日1148-3 三ケ日駅舎内
TEL.053-525-2202

27 Planner



Shinichiro Nishimura






マルチに遊び、マルチに創造して、人生を豊かにする。

ヤマハ発動機　クリエイティブ本部　西村慎一郎

ヤマハ発動機で数々のバイクを商品企画してきた西村さん。その印象は好奇心の塊。バイクに限らず様々な分野で「楽しさ」を追求。クルマ・自転車・キャンプ・食事・音楽…、多彩な趣味を満喫し、その「楽しさ」の本質的な魅力をものづくりへ投影してきた。「生まれつきか、入社してからなのか、人と同じものは作りたくないという気持ちが強いです。うちの製品は生きていくだけなら必要ないもの。しかし使い手にとって、人生を豊かで幸せにするものを提供することが使命だと思っています。」その好奇心はものづくりにとどまらず、現在は「コト」の創造へと広がっている。

ヤマハ発動機クリエイティブ本部 防災ライダーFIST-AIDチーム
fistaid@yamaha-motor.co.jp

26 Craft artist



Miyuki Masuda






素材が持つ「遠州のストーリー」を伝えていきたい。

teatrino［テアトリーノ］代表　増田美由紀

遠州織物や、天竜の鹿や猪のジビエ革を使ったバックや雑貨の企画、製造、販売をおこなっている増田さん。時には帆布を織る織物工場に飛び込み、そこで職人たちと一緒になって作業することも。それらの体験は、自らの商品に込められ、テアトリーノのストーリーにもなっていく。その商品は高く評価され、いまやマルシェや百貨店のイベントへの出店依頼が絶えないほどに。「今後は県外にも積極的に商品を出していきたいですね。」と自らベース基地と呼ぶ、新しくできたアトリエで語ってくれた。

テアトリーノ　アトリエ「.comme」
湖西市新居町新居3444-7
https://teatrino-mode.com/

Enshu Siast's Choice!



こだわりのタジン料理とリラックス時間。クセになる異国空間へようこそ。

ツーリング先での食事はちょっぴり特別で非日常を感じられる方がいい。「リラクシン多国籍料理 ROBANOMIMI」のタジン料理は、そんなライダー心理を満たしてくれる。数々のお店で修行してきた店主がモロッコで出会った本場の味に自身の経験をミックスしたこだわりのタジン料理は、過度な香辛料を使用しておらず日本人の口に合うやさしい味付け。装飾や照明、音楽にまでこだわった店内は、異国情緒溢れる非日常を体験でき、ゆったりとした時間が過ごせる。店内には靴を脱いで入るので、それだけで気持ちが切り替わる。

また、最近流行りのシーシャ（水煙草）が楽しめるのも大きな特徴。一人でまったりするのもいいし、仲間と談笑しながら吸うのも楽しい。ライダーでもある店主はW650、Royal Enfield、グラストラッカー、モンキー、コレダを所有する生粋のエンシュージアスト。ライダーの来店は大歓迎との事。

ツーリング先で美味しい料理を食べる、心地いい空間でリラックスする、店主の人柄に触れる。そんな総合的な体験ができてこそ、エンシュージアスト的な楽しみ方ではないだろうか。

ミートボールタジン煮込み トマト味のオムレツタジン　1,500円

見た目がかわいい不思議な形のタジン鍋はモロッコでは各家庭に必ずあるポピュラーな鍋で、煮込んでも炒めても蒸しても使える万能お鍋。店主が一鍋ずつ気持ちを込めて作るタジン料理は種類が多くてボリューム満点。中でも「ミートボールタジン煮込み トマト味のオムレツタジン」は卵とトマトソースのマリアージュがミートボールの旨みを際立たせてくれるオススメの一品。



20年ほど前、日本では当時珍しかったタジン鍋の魅力に取り憑かれた店主の伊藤さんは、本場モロッコのタジン料理を習得するために海を渡り、現地の家庭料理を教えてもらう事で自分の理想の味を見つけた。



ツーリングでリフレッシュした心をシーシャ（水煙草）でリラックスさせるのも一つの楽しみ方。シーシャを求めて来店するファンも多い。



沢山の植物の緑と赤い瓦屋根のコントラストが際立つ不思議な外観。道沿いの看板が目印。



お店裏の駐車場は広くてバイクが停めやすい。たま〜に猫ちゃんがお散歩しているので運がいいとバッタリ出会うかも。

リラクシン多国籍レストラン ROBANOMIMI

浜松市中区萩丘3-9-30
TEL：053-471-0022
営業時間：Lunch/12:00~15:00　Dinner/18:00~22:00
定休日：不適休（HPまたはインスタグラムをご確認ください）
HP：https://www.robamimi.jp/

※掲載の価格はすべて税込みです。



エンシュージアスト厳選、ツーリング先で寄りたいグルメ&ドリンク・イチ推しメニュー!

遠州を食べ尽くせ!

NO EAT, NO RIDE!

NO EAT, NO RIDE!

エンシュージアスト厳選、ツーリング先で寄りたいグルメ&ドリンク・イチ推しメニュー!

鴨江珈琲



鴨江ブレンド
550円

サンバやロックなどの音楽好きなマスターが、厳選した豆を自家焙煎し、ハンドドリップで丁寧に淹れてくれる鴨江ブレンドはケニア、エチオピア、グァテマラそれぞれの特徴を活かした絶妙な味わい。ガトーショコラ(480円)と一緒に。



浜松市中区三組町139-8
TEL : 053-571-2759
営業時間 : 10:00~18:00
定休日 : 月曜日

PARK WOOD 61 BURGERS



61BURGER + Potato set
1,430円(880円+550円)

西海岸をイメージしたポップな雰囲気の店内。61バーガーはオリジナルのチリソースとタルタルソースのコラボがパテの旨みを充分に引き出す一番人気のメニュー。オーナーもライダーで愛車はYAMAHA SR400。



浜松市西区坪井町580-1
TEL : 053-488-4016
営業時間 : 11:00~15:00(平日)
11:00~18:00(祝・土日)
定休日 : 水曜日

Cafe & Bakery げんらく



無農薬りんごのアイスワッフル
1,375円

のどかな田園地帯に立つ素敵なお店。天然酵母・無添加の体に優しい手作りパンやランチ・ケーキセットなども充実。いろんな方に安心して楽しんでもらいたいと語るオーナーは、NS400R乗りとしても有名で雑誌にも取り上げられたほど。



袋井市岡崎1225-6
TEL : 0538-23-0141
営業時間 : 11:00~18:00
定休日 : 水・木曜日

CAKE & CAFE BLISS



キャラメルパンケーキ
1,400円

Hawaiiをコンセプトにした店内は開放的で、まるでリゾートに来た気分。ボリューム満点のキャラメルパンケーキは様々なトッピングで味を変えて楽しめる。パンケーキと相性抜群のハワイ原産コナコーヒー(900円)と一緒に。



浜松市北区三ヶ日町鵺代58-20
TEL : 053-525-2424
営業時間 : 10:00~18:00
(Food L.O. 16:30)
定休日 : 月・火曜日
(臨時休業あり)

KUSHITANI CAFE 舘山寺







ホットドッグフレンチマスタード　660円

全国で4番目のKUSHITANI CAFEとして、かんざんじ温泉門前通りにオープンしたお店は、古民家を改装した古さと新しさが同居したおしゃれな空間。レジェンドのレーシングスーツやオリジナルグッズも充実して、気分も上がること間違いなし。ボリューム満点のホットドッグはツーリングの休憩にぴったり。舘山寺店限定の三ヶ日みかんクラッシュアイス(700円)と一緒に(ともにイートイン)。

浜松市西区舘山寺2208-1　TEL : 053-523-9169
営業時間 : 平日11:00~17:00　土日祝10:00~17:00　定休日 : 水・木曜日

Riders Cafe CAROLWAY







あんかけパスタ(オリジナル)　780円

今年の2月にオープンしたばかりのCAROLWAYの自慢の一品は、遠州エリアではなかなか食べることができない名古屋のソウルフードあんかけパスタ。名古屋出身のマスターが作る本場の味を求めて県内外からライダーが集まる。中でもオリジナルは玉ねぎとウインナーと卵が絶妙にあんに絡んでどこか懐かしい味を楽しめる。

浜松市北区細江町気賀10172-1　TEL : 053-548-5290
営業時間 : 9:00~19:00(平日)・8:00~19:00(祝・土日)　定休日 : 木曜日、第3金曜日

ヒコウビラン



昔ながらのナポリタン
1,100円

創業43年の老舗の喫茶店。豊富なメニューの中でもお勧めは熟々の鉄板の上にコクのある「昔ながらのナポリタン」。半熟卵付きが嬉しい。モチモチの生パスタとケチャップの相性もばっちり。専用の駐輪場も広く整備されてバイクでの利用がしやすい。



浜松市中区佐鳴台1丁目15-28
TEL : 053-440-8008
営業時間 : 9:00~21:00
(L.O. 20:30)
定休日 : 木曜日、
第2水曜日

自家焙煎　蔵茶房なつめ







酒粕プリン　450円　(旬の珈琲 700円)

蔵をイメージした店内は、実際に酒蔵で使用されていた古材や家具を使用し、温もりの感じる空間。眼前に猪鼻湖を望む。自慢の酒粕プリンは吟醸粕を生地と絡め上品でクリーミーな味わい。旬の珈琲は毎月違う世界の珈琲が楽しめる。日常から切り離されてほっと一息させてくれる空間を求めてくるライダーも多い。

浜松市北区三ヶ日町津々崎342-2
TEL : 053-524-2525
営業時間 : 9:00~18:30(L.O. 18:00)　定休日 : 木曜日

J.Diner KAMACHI



牛ステーキのせガーリックライス
1,155円

50年代アメリカのドライブインをモチーフにしたダイナーでは、店主こだわりの手作り料理が味わえる。おすすめの一品はやわらかいサーロインステーキがドンと乗っていて見た目も豪快だ。豊富なメニューで毎回何を食べようか選ぶのも楽しい。



湖西市鷲津426-6
TEL : 053-523-7393
営業時間 :
Lunch/11:30~15:00(L.O. 14:30)
dinner/17:30~21:00(L.O. 20:30)
定休日 : 月曜日、第3火曜日

道の駅したら



森の恵みまぜそば　1,100円

2021年5月にオープンした「道の駅したら」は、二輪車駐車場49台分を完備した、ライダーを歓迎してくれる駅。構内にある「清嶺食堂」では、ジビエ肉(鹿肉)を使った豪快なまぜそばが味わえる。ほかにも設楽町の特産物を購入できる市場や、日本酒造りの体験工房が入り、隣接する「奥三河郷土館」、屋外に展示された豊橋鉄道田口線の木製車両など、見どころも多い。



愛知県北設楽郡設楽町清崎字中田
TEL : 0536-62-1021
営業時間 : 11:00~15:00
(清嶺食堂)
定休日 : 無休

※掲載の価格はすべて税込みです。

コーヒー ブラックバード



深煎りブルンジ
500円

元ホンダエンジニアとして数々の名車を開発した山中氏が営むスペシャリティコーヒーショップ。コーヒー屋ボンボンで仕入れた豆を、旨みやアロマを忠実に表現できるフレンチ・プレスで抽出。好みや気分で飲み比べ、いろんな豆を楽しんで欲しい。



浜松市西区深萩町304-225
TEL : 053-486-0365
営業時間 : 土・日10:00~18:00、
月・火12:00~19:00
定休日 : 水・木・金曜日

SAYA SWEETS GARAGE



カップシフォンケーキ
500円

150号線沿いのお店はアメリカンなキッチンカー。菓子専門店で修行したパティシエが作るシフォンケーキが人気。専用オーブンで丁寧に焼き上げるスポンジはふわっふわの食感で、クリームとの相性も抜群。地元ライダーからの指名買いも。



磐田市福田3101-1
TEL : 0538-55-6655
営業時間 : 10:00~15:00
定休日 : 火・水・木曜日

GS BURGER



サバサンド
825円

前号で「エンシュージアストバーガー」を作ってくれたGSバーガー(現在も平日のみ提供)。今回紹介したいのは「サバサンド」。丁寧に骨を取り、特性ソースと新鮮な野菜とでサバをバゲットにはさんだ絶品メニュー。レモンを一絞りすると最高。



浜松市南区卸本町28GSビル1F
TEL : 090-8544-5356
営業時間 : 11:00~18:00
定休日 : 木曜日



NO EAT, NO RIDE!



エンシュージアスト厳選、ツーリング先で寄りたい グルメ&ドリンク・イチ推しメニュー!

READY







ティーソーダ　500円

クリエイターやシェフたちとコラボしながら、人気を集めている「リアンディ」。特徴的な建物の中には、リアンディオリジナルのテイクアウトドリンクを提供するスタンドカフェがあり、エスプレッソマシーンから抽出するコーヒーのほか、オリジナルの紅茶シロップを使った「ティーソーダ」は爽やかな飲み口で人気の一品。

浜松市西区雄踏町山崎6265-1
TEL：053-489-8000
営業時間：平日·11:00〜16:00　土日祝·11:00〜17:00　定休日：水曜日

Antique Cafe Road（アンティークカフェロード）







オリジナルカレー　ミニサラダ付き　1320円

掛川の山奥にある牛舎をリノベーションしたカフェ。店内には古いラビット·スクーターやアンティークな家具や雑貨などが並び、懐かしい昭和感を満喫できる。オーナーこだわりの三種類の豆&鶏ひき肉入りのカレーと、4種のベリーが入ったミックスベリースムージー（660円）がオススメ。

掛川市大野1776-7
TEL：090-4853-0851
営業時間：11:00〜16:00　定休日：月·火曜日

TRANSIT COFFEE ROASTERS



テイクアウトドリンク
400円〜

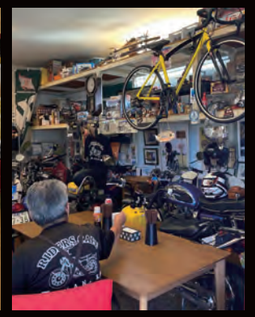
11種類の自家焙煎珈琲豆販売とテイクアウトコーヒー。黒色の小さな小屋とトレーラーハウスが目印。珈琲の楽しみ方をスタッフが丁寧に教えてくれる。ドリンクのテイクアウト、珈琲豆のほか、ドリップバッグも販売。



浜松市南区卸本町28
TEL：080-9496-3336
営業時間：10:00〜19:00
定休日：木曜日

ライダースカフェはまなこ







生姜焼き定食　900円

開店5周年を迎え、今では遠州地域ライダースカフェの老舗と言える存在。美味しい肉を味わってもらいたいとの想いから、細江のとんきいで仕入れる豚ロースの生姜焼き定食は2枚重ねでボリューム満点。限定10食のトンテキ定食とともに同店の看板メニューだ。（おまかせ料理は、トンテキ、海鮮丼等、季節によって変わりあり）

浜松市西区舞阪町弁天島2739-2
TEL：053-596-3770
営業時間：土·日曜日 8:00〜17:00　定休日：平日（月〜金）

smoker planet



強化ナポリタン
1,100円

愛煙家ライダーにはうれしい全席喫煙可のカフェ。お勧めは定番ナポリタンの強化版。特製トマトソースで煮込んだミートボールとスパイシーなソーセージが特徴。ぷりぷりの太麺と濃厚なソースが食欲をそそる。



浜松市中区三組町44-1
TEL：053-528-7077
営業時間：12:00〜23:00
（L.O. 22:30）
定休日：月曜日

Ally Paradise



自家焙煎コーヒー
250円

ロックTやマニアなバンド、映画グッズを扱う「MUNBLES」のデッキスペースで営業する小さなカフェ。オーナーが自ら焙煎するコーヒーはアイスもホットもオススメ。オーナーのスポーツスターはじめいつも店先にはバイクが集う。



浜松市中区葵東2-16-8
MUNBLES横
営業時間：土·日·祝日の
13:00〜20:00

アオゾラカフェベイス







カオソーイ（エスニックラーメン）　700円

潮見バイパスの下の道脇に木々に囲まれ、知っていないと通り過ぎそうなお店。オープンスペースでまったりと過ごすのもよし、大モニターに映し出されるスポーツを観ながら盛り上がるのもよし、ここは文字通りの「BASE」。エスニックベースのオリジナル料理も含め、刺激的な空間だ。

湖西市白須賀697-2
TEL：053-579-3985
営業時間：11:00〜サンセット　営業日：土日曜日·祝日

トンネルカフェ



モーニングセット
700円

春野と森の境、周智トンネル脇のオープンカフェ。現地仕込みの海外の味にバイク·車乗りが集まる。この夏、ベトナム最北端辺境のカフェ、クック·バックと姉妹提携した。お客様から"語らいと出会いのカフェ。とも。



浜松市天竜区春野町堀之内信州街道
TEL：090-2264-0173
営業時間：7:00〜14:30
（L.O13:30）
水·土·日·祝祭日営業
（1〜2月は自宅営業）

和食処　なかや



焼魚定食
1,210円〜

磐田市旧豊岡村にある地元食材を使った和食が楽しめるお店。懐石料理店で修行を積んだ店主が作る料理はどれも絶品。フライ·お刺身·焼き魚といった各種定食も充実、その日に仕入れた旬の素材を使ったオススメ定食は要チェック。



磐田市上野部1649-1
TEL：0539-62-2061
営業時間：昼11:30〜13:30、
夜17:30〜21:00
定休日：毎週火曜日·
最終水曜日

cafePIT



ワッフルセット
600円

オーナーが念願のカフェをオープンしたのは2007年。お店の設計もご自身で行い、なんとDIYで建てたという。オフロードツーリングで全国を旅し、愛車はセロー225とCRM80。本誌を見たでワッフルがサービスに。



掛川市上西郷332-3
TEL：090-2344-6611
営業時間：11:30〜20:00
金·土·日営業

オリエンタル雑貨+カフェ Ora







台湾かき氷（イチゴ果肉付き）　950円

緑豊かな自然と田園風景が広がる里山に建つ、築130年の古民家をリノベーションした店舗は、時間がゆっくり流れていて、のんびりとティータイムを満喫するのにぴったり。夏季限定の台湾かき氷は氷そのものに味がついているフレーバー氷でふわふわの食感がまろやかな口溶け。フルーツの甘味と氷の冷たさがツーリングで火照った体を癒す。

浜松市北区引佐町谷沢238-1　TEL：053-543-1670
営業時間：11:00〜17:00　定休日：日·月·火曜日（臨時休業も稀にあり）



※掲載の価格はすべて税込みです。

NO EAT, NO RIDE!



みんなのカフェ

EAT & CAFE
湖西市利木



ハンバーグプレート
1,480円

じっくり煮込んだボリュームあるハンバーグとサラダ、ご飯をセットに。ご飯のかわりに自家製ベーグルもチョイス可能。浜名湖沿いの絶好のロケーションはツーリングの休憩ポイントにぴったり。週末はバイクや自転車でにぎわう。



湖西市利木226-1
TEL：053-578-3888
営業時間：10:00～17:00
定休日：水曜日

Nel Cafe マイルストーン

EAT & CAFE
浜松市天竜区







雪苺　800円　シングル焙煎･エチオピア（イルガチェフェ）ナチュラルモカ　600円

自家焙煎の自慢のコーヒーと、JBL×Mcintoshで聴く極上のJAZZが楽しめる隠れ家的カフェ。天龍の山々を望む高台の古民家をリノベーションした落ち着いた空間でいただくカフェと音楽は、ツーリングで疲れた身体を心地よく癒やしてくれる。夏季限定メニューだったフローズンストロベリーを使った「雪苺」は、あまりにも好評につきオールシーズンで提供。

浜松市天竜区横山町711　TEL：053-923-1250
営業時間：10:00～18:00　定休日：水曜日

大石農場ハム工房

EAT & CAFE
掛川市沖之須



ホットドッグ
500円

ドイツから仕入れたスパイスを使用したソーセージはプレーン、チーズ、チョリソーの3種類。シンプルなプレーンは絹挽きのプリっとした食感が楽しめる。舗装済み駐車スペースもあり、テラス席でのんびり過ごすのもオススメ。



掛川市沖之須451-3
TEL：0537-48-5618
営業時間：10:00～18:30
定休日：火曜日

Cafe & Rest KOPI POT

EAT & CAFE
御前崎市



アボガドチーズバーガー
600円

サンビーチに面した、三角屋根が目印の小さなカフェ。夢咲き牛と遠州黒豚の合挽き肉のハンバーガーをはじめ、自然派の店主の作るメニューは体に優しい。お店前の堤防に大きく描かれた「LOVE」のウォールアートは映えスポット。コピ塩も好評。



御前崎市御前崎1055-1
TEL：0548-63-6620
営業時間：11:30～20:00
定休日：月～水曜日･不定休

※掲載の価格はすべて税込みです。

カフェレッドローズ

EAT & CAFE
磐田市竜洋



デニッシュスィーツ YZ-M
1,000円

「YZ-M」は特注の大判クロワッサン生地にアイス･生クリーム･フルーツが乗った、7種類のボリューム満点スィーツ。写真はその中のイチオシの「禰（ね）」。猫と遊べるスペースや鉄道模型がある面白い店内は、トイレに至るまでバリアフリーなつくり。



磐田市白羽387-3
TEL：0538-74-1454
営業時間：8:00～22:00
定休日：木曜日

福ちゃん二川本店

EAT
愛知県豊橋市



白湯ラーメン
715円

自家製のちぢれ麺にコラーゲンたっぷりの特製濃厚豚骨スープが絡む白湯ラーメンが人気。途中から薬味の「青唐辛子のたれ」を入れると風味が立って二度美味しい。駐車場内に持ち帰りの冷凍餃子の無人販売所があるのでお土産も買えちゃう。



愛知県豊橋市
雲谷町川通り23-70
TEL：0532-41-7019
営業時間：Lunch/11:00～15:00
Dinner/17:00～21:00
定休日：水曜日

エンシュージアスト厳選、ツーリング先で寄りたい グルメ&ドリンク･イチ推しメニュー!

MAGAZINE

EAT & CAFE
浜松市南区



ティラミス
400円

1987年にオープン。趣味人が集える場所になればいいと語る店主は、自らもTRIUMPH TR4Aを所有する生粋のエンスーだ。専属のパティシエが作るケーキは本格的でファンが多い。不定期だが店内に往年の名車が展示される事もある。



浜松市南区中田島町529-1
TEL：053-442-1551
営業時間：9:00～
定休日：水曜日

森のレストラン かわせみ（アクティ森）

EAT & CAFE
周智郡森町







太田川ダムカレー　1,200円

気持ちの良いワインディングが広がる遠州森町の体験施設。ツーリングの集合地点や休憩場所として、休日は多くのライダーで賑わう。施設から9kmほど上流の太田川ダムを型どったカレーが人気。地元銘菓や土産が買える「森のよんな市」では、デイトナ商品も販売される。

周智郡森町問詰1115-1
TEL：0538-85-0113
営業時間：10:00～16:00（L.O15:30）　定休日：水曜日（祝日･春･夏休み営業）

A-Cafe

EAT & CAFE
浜松市南区







牛肉100%ハンバーグ　1,300円

カスタムハーレーを眺めながら、大きなソファでゆったり過ごせるニューヨークスタイルのカフェ&バー。ライダーに一番人気は牛肉100%パティのハンバーグ。定食や本格スィーツなどメニューも充実。バイクコーティングサービスも行っていて、作業の待ち時間やご家族でのカフェ利用も楽しめる。

浜松市南区西島町373−2
TEL：090-9120-7400
営業時間：10:00～22:00（料理･ドリンクL.O. 21:30）　定休日：不定休（9月より）

DELICIOUS KITCHEN

EAT & CAFE
浜松市南区



厚切りトンカツ定食（170g）
1,180円

大きなカーポートを利用して作られたユニークな店舗。季節で入れ替わる定食スタイルのメニューはどれもハズレなし。サクッとした衣とジューシーな肉がたまらなく美味しいトンカツは、170g･200g･230gとボリュームが選べる。



浜松市南区卸本町28
TEL：080-6239-7972
営業時間：10:00～14:00
定休日：日曜日

中華屋 貴長

EAT
浜松市北区



MACH Ⅲ（マッハスリー）
930円

車とバイク好きの大将が営む天浜線気賀駅内のラーメン店。「MACHA Ⅲ」はKAWASAKIカラーのライムグリーンをアオサを練りこんで再現した、塩味のチャーシュー+ワンタン麺。天気がいい日は大将の愛車GT750が店先にあることも。



浜松市北区細江町気賀429-1
TEL：053-523-0806
営業時間：11:00～
定休日：水曜日





YES, IT'S MY LIFE!

クルマ、バイク、ホビー、ガレージ、キャンプ、音楽、ガーデン・・・
「好き」を諦めない熱中人たちは皆それぞれが最高のライフスタイルを持っている。
そんなエンシュージアストが厳選した「生き方の達人」たちを一気に紹介！



必要な装備を1台に全て盛り込んだ
ハイエーストランポのコンプリートカー誕生！

OGUshow COMPLETE CAR
HIACE
200 Series
DI

HIACE COMPLETE CAR
ハイエーストランポオグショーコンプリートカー「DI」

詳細はホームページを
ご覧ください

トランポ架装例 ハイエーストランポのことならオグショーにお任せ！

バイク仕様
自転車・バイク仕様
ミニバイク仕様
釣り仕様
ファミリー・車中泊仕様
ファミリー・車中泊仕様
ワンちゃん仕様
ワンちゃん仕様

各種オーダー架装に対応。ぜひご相談ください！

OGUshow
〒435-0006 静岡県浜松市東区下石田町1841-1　TEL 053-421-0122　FAX 053-421-3686
営業時間／AM10:00～PM7:00まで　定休日／毎週日・月曜日
https://www.ogushow.co.jp

トランポ架装例を多数掲載！
詳細はオグショーHPへ
オグショー　検索

Enshu Siast's Choice!

自由に働き、自由に遊ぶ 自分スタイルのON&OFF。

有限会社オグショー【浜松市】







巣ごもり需要が増えたと言われる昨今、やはりフィールドが恋しくなる。自宅でもトランポで道具の手入れをすれば、なぜだか不思議とリラックスできる。



トランポと一緒なら、思い立った時にすぐフィールドへ。仕事も余裕でこなせる室内空間は、時間の使い道を思い通りに決められる。まさに仕事と遊びをシームレスにつなぐ頼れる相棒だ。







時間や場所に縛られない、自由な新しい働き方

ある平日の朝、サーフ道具一式を積み、タブレットと手帳を持って家を出た。途中のコンビニで朝食を買い、向かったのは近くのビーチ。夜から吹きはじめた風で、ちょうど良い波が立っている。沖に向かってパドリングし、数本軽めのライディング。波に乗っているときは、自然の一部となって無心になれる。波から上がると、海を眺めながら軽めの朝食。ひと息ついたところで、デスクにタブレットを置いて、朝一のメールを確認する。その後は今抱えているプロジェクトの構想を練ってみる。普段は骨が折れるアイデア出しも、今日は自然と浮かんでくる。やっぱり今日は海に来て良かった。

近年働き方が多様化してきた影響で、よりフレキシブルに働くスタイルが定着しつつある。時間や場所に縛られず、趣味を楽しみながら、そのままフィールドで仕事する。「ワーク（仕事）＋バケーション（休暇）＝ワーケーション」という新しい働き方。そんなワーケーションの可能性を広げるクルマが2021年に誕生した。トランスポーター専門店のオグショーと日産自動車が共同開発した「日産キャラバン オグショーESモビリティコンセプト」だ。

遊びも仕事も我慢しない、余裕の室内空間と多彩な装備

アウトドアを舞台にした遊びは、やたらと道具が多い。例えばフィッシング。ロッドやリールも狙う魚に合わせて、それぞれ用意したい。ルアーや糸、重りなど、天候や時間によってベストなものを選びたい。自然の中で遊ぶから、ウエアやベストも動きやすさと快適なものを揃えたいし、じっくり魚と対峙するならフィッシングチェアも必須だ。道具が多彩であるほど、遊びの質をより豊かにする。

そんな遊びを愛する人にとってありがたいのは「ESモビリティコンセプト」の余裕ある室内空間と数々の装備品。フラットなフロアパネルは、どっさり荷物を積んでも安定する。天井にラックをつければ、複数のロッドからサーフボードといった長尺ものをスッキリ積める。中でも一番のポイントはベッドシステム。片側跳ね上げ式のベッドは、荷物を積んだまま横になれる。遊びに疲れたら、その場でゴロンと仮眠できるのは何より心地よい。ウィンドウパネルからテーブルを出せば、道具の手入れもはかどる。セカンドドアを開けてテーブルをセットすれば、自分だけのオフィスに早変わり。フィールドの風を感じての作業は、気持ちもリラックスして、普段のオフィスより集中力が高まる。作業が一段落したら、またフィールドで遊びに戻れる。「ESモビリティコンセプト」なら、遊びにも仕事にも、何かを我慢することなく思いのままに熱中できるだろう。

仕事と遊びを自分らしいスタイルで

仕事や遊びのスタイルは人それぞれ。トランポづくりに豊富な経験のあるオグショーでは、ベース車両や遊びのジャンルを問わず、ユーザーのスタイルに合わせて、オーダーメイドで思いどおりのクルマを手に入れられる。キャラバンやハイエースといったフルサイズのトランポとともに、最近ではNV200や普通車枠のセレナ、さらに軽ワンボックスのトランポも数多く手がける。

今回「ESモビリティコンセプト」でオグショーが提案したのは「仕事と遊びをもっと自由につなげるクルマ」。まさに「モビリティ＝移動」に新たな価値を創造したと言えるだろう。オグショー「ESモビリティコンセプト」なら、仕事と遊びをより自分らしいスタイルで実現できるに違いない。



有限会社オグショー
TEL.053-421-0122
〒435-0006 静岡県浜松市東区下石田町1841-1
https://www.ogushow.co.jp

Close-up



NISSAN CARAVAN OGUshow ES MOBILITY CONCEPT

「NISSAN」と「OGUshow」のコラボレーションで実現した、仕事も遊びも自分らしく過ごせる車。パーツは全てDIYで取付できる「ESパーツ」を採用し、ご自身でのグレードアップも可能。



NV200 VANETTE Multi Bed Wagon

日本の道にジャストフィットするサイズ感。ご夫婦2人での車中泊旅や、趣味に仕事に大活躍。コンパクトながら、伸び伸び過ごせる快適性が自慢の1台。



OGUshow COMPLETE CAR HIACE 200 SERIES “DI”

ハイエースをベースとしたトランポのコンプリートモデル。そのままでも十分なトランポの機能を持ち、さらに装備を追加すれば、オーダーメイド感覚のオンリーワントランポが完成します。

Enshu Siast's Choice!

遠州にカリフォルニアが出現?! ライダーが集う"映えスポット"誕生。

ダイナオガレージファクトリー【磐田市】代表 大石博和







パークを見た近所の女性が「ここを見て昔訪れたアメリカを思い出した。懐かしい風景ね。」と感想を。掛川市（旧大須賀町）は1988年から米コーニング市と姉妹都市交流している。



取材には大石氏のローライダーと共に、編集部から山さん山川とドン・サハラが愛車で参加。リアルアメリカンな雰囲気に気分も盛り上がる。今後も予約制の撮影会が随時開催される。



壁面にはL.Aからシカゴに至るルート66のロードマップが。大石氏が実際に走ったときの印象などを語ってくれた。







乗り物好きがワクワクするテーマパーク

掛川市沖之須、国道150号線を少し入った静かな住宅街。一瞬「ここはどこ?」と思わせる空間が出現する。アルミフェンスで仕切られた敷地内、最初に目につくのは、ルート66の片田舎にあるような古びたガソリンスタンド。中央にバーキングスベースがあり、バイクガレージとホビーガレージを設置。多肉植物やプラント菜園が置かれ、木製の塀にはルート66の地図が手描きされる。

ここは全国屈指のガレージビルダー、ダイナオガレージファクトリー大石氏が作ったプライベートガレージパーク、通称"沖之須カリフォルニア"。自宅裏の空き地を整備し、乗り物好きがワクワクするリトルアメリカンな空間を作り出した。

「元々はガレージを作りたいお客様に、設置した状態をリアルに見てもらおうと計画しました。ガレージは保管するための上家だけでなく、設置場所の基礎やスロープといった周りの工事が必要です。このガレージは一番ベーシックなブロックを並べた基礎に設置しています。コンクリート舗装して車も停められるようにしました。自宅横のスペースでも、これだけのことが出来るというガレージの展示場です。ここを見てもらえば、空想ではなく、より具体的なガレージプランを考えられると思います。」

様々な仕掛けで、おうち時間を楽しむ

パーク内でひと際目を引くのが、ビンテージのガスポンプが設置されたガソリンスタンドのリアルな表情。実は奥行き30センチ足らずなのだが、うっかりドアを開けて中に入ってしまいたくなる。エイジングペイントや造形を担当したのは、東京のキャンディガレージ高藪乾二氏。雑誌Garage Life Americanの編集も務め、大石氏とは旧知の仲。

「せっかく作るのだから、大好きなルート66沿いのさびれたスタンドを再現してしまおうと、造形もやっている高藪氏に相談しました。ガスポンプや小物などもアメリカで買って、ずっと仕舞ってあったもの。パークの小道具として役立って、楽しい空間が作れたと思います。」

「ガレージで過ごす時間を、もっと楽しんでもらいたいです。長く続くコロナ禍で、ライダーは走れなくてストレスが溜まっている人も多いでしょう。でもガレージに植栽を植えたり、菜園を作ったりすれば、バイクをいじるお父さんだけでなく家族も一緒に楽しめます。ガレージは男の趣味空間と同時に、家族全員を幸せにする空間なんですよ。」

ブリキのトラクターが引くカートには、大小のサボテンが植えられ、ロードサイドの情景とよくマッチしている。

「カートの中にある戦車が見る度に位置が変わってる。小さな兵隊さんでもいるんですかね。」と大石氏がにこやかに話す。きっと近所の子どもたちが、毎日戦車で遊んでいるんだろう。楽しくも微笑ましいエピソードだ。

ガレージが、みんなを幸せにする

先日ガレージパークを舞台に、クラブハーレー誌の撮影会が開催された。自慢の愛車を駆って約20台が参加。それぞれ時間差でやってきて、自由なポーズでカメラに収まった。

「写真を撮るとき、みんなが楽しい表情でした。ずっとガレージを作ってきたけど、笑顔が見れる時が最高に幸せですね。」

取材中にも、キャリーカーに子どもを乗せたお父さんがやってきた。話を聞くと「ここが出来てから、よく遊ばせてもらってます。ここに来たいって、いつもせがまれるんですよ」とのこと。大石氏が語った「ガレージは家族を幸せにするんですよ」という理想を体感できた瞬間だった。



ダイナオガレージファクトリー
TEL. 0538-55-6655
〒437-1203 磐田市福田3101-1
http://dainao.net

Close-up



1995 FXDL DYNA Low Rider
ダイナオガレージを創業時から共に支えてくれた知人の形見として譲り受けた。一生涯手放せない思い入れのある一台。



TEXACO GAS PUMP
ルート66ツーリングなど、アメリカが大好きな大石氏が、10年ほど前に現地で手に入れたビンテージのガソリンポンプ。THE WAYNE PUMP COMPANY製。



プライベートガレージ
昨年増築を完了したプライベートガレージ。愛車のC-10やご家族の車も保管し、雨天でも存分に整備が行える。

Enshu Siast's Choice!

スマホ画像に彩りを添えて オリジナルパネルを作ってみる。

株式会社ナイストゥハブ【浜松市】



スマホで撮影したツーリング途中の集合写真。少し暗くぼやけた印象。



画像補正後の写真。場所の雰囲気に合わせ、レトロチックなトーンに。さらに人やバイクが浮き出てくるように補正。



ツーリングで撮影した何気ない集合写真のデータが、アンティークなイメージで補正、プリント加工され、味のある一枚のパネルになった。

【irodori】アイテム

pascan



キャンバス地からの壁紙に出力。写真だけど油絵のようなしっとりとした質感が魅力。

clarity



アクリル版タイプ。スタンド型やLED照明を埋め込んだ内照型もあり、発色に優れているパネル。

washin



専用和紙を使用、品の良い質感が特徴。背板を外して光が透き通りステンドグラスようなフレームは天竜材を使ったオリジナル。

washin LED



フレームにLED照明を埋め込んだwashin.光が写真を引き立てます。ベッドサイドなどにどうぞ。



完成!

約2週間程度でお手元に届きます。



専任スタッフが商品、補正希望に合わせて適切な画像データを作ります。

オリジナルパネル 完成までの流れ

オンラインショップ
asobi gokoro



名前など必要事項を入力し、ご要望の欄に画像補正についての希望を記入します。



データ添付にてファイルを選択しカートに入れます。カートを確認して、レジに進みます。



形や色加工、カスタマイズを選択します。



トップページにある商品ラインナップから今回は「pascan」を選びました。



スマホに眠っている思い出をパネルに

スマートフォンのカメラ性能がよくなったおかげで、ツーリング先での撮影をスマホで済ませている方が多いでしょう。スマホの写真には、シャッターを切った時の情景や思い出が詰まっています。それは、その時にしか写せないかけがえのない瞬間、仲間とのツーリングなどは大切なシーンでしょう。そんな思い出を、ただスマホの中にだけ仕舞い込んではいませんか？この機会に思い切ってパネルにして、大切な思い出をガレージに飾るのはいかがでしょう。「自分で撮った写真、しかもスマホで撮った写真をパネルにまでしなくても…」「どうせ、上手く撮れていないし…」なんて尻込みする必要はありません。「ナイストゥハブ」では、そんな方に向けて、スマホを使ったオーダーやリクエストに応える画像補正を含めたパネル製作サービスを始めました。

他とは一味違う、オリジナル写真加工

スマホから簡単にオーダーできるのはとても便利。しかし、そのようなサービスは大なり小なり、既にあちこちに見受けられるもの。では「ナイストゥハブ」のサービスは何が違うのか？二つ目は、お預かりした写真を雰囲気あるイメージに補正します。ちょっとレトロっぽくとか、明るく爽やかにとか。そして少しばかりバイクや仲間の表情が引き立つように、オンラインを主にしたサービスで、なかなかそこまでやるところは少ないのではないでしょうか。

二つ目に、プリント出力を自社の機械で行います。お客様が希望するイメージに補正できているかを内部で確実にチェックしてからパネルにします。そんな作業を経て、パネルはお手元に届きます。さらに、フレーム有りの加工を選べば、地元天竜材を使用した13色のウッドカラーフレームで額装します。サイズも豊富に選ぶことができ、飾りたい場所に合わせて注文できます。

画像補正に対するノウハウが豊富

「ナイストゥハブ」を運営するのは、食品などのパッケージ印刷の色表現に特化した浜松ロール工業株式会社。昭和50年の創業以来、大手食品メーカーを中心としたパッケージのグラビア印刷に関わってきました。デザインや写真の色について、魅力的な表現に注力してきた会社です。今ではナショナルブランドのパッケージを多く扱っています。色に関してはプロフェッショナル。画像補正もプリント出力も本格的。今回の「ナイストゥハブ」事業は、その本社部署が専任スタッフとして担当します。パッケージ印刷と同等水準の技術で、適切な補正を行います。「ちょっとレトロな感じ」というオーダーには全体のトーンをいじってみたり、全体に暗い写真は明るく、さらに爽やかにしてみたり。お好みにより、バイクだけ浮き上がるよな仕上がりにしてみるなど、さまざまなオーダーにお応えします。

オリジナルパネルで空間に彩りを

バイクや仲間との想い出のワンシーンをパネルにして、自分だけの空間を創っていく。それは好きなものに囲まれて過ごしたい方の新しいチョイス。友人に「そのパネルいい感じじゃん」なんて言われたら、「この写真、俺が撮ったんだ」と涼しげに自慢しましょう。

「ナイストゥハブ」のプリント機械は壁紙出力にも対応。好きな写真を壁紙に引き伸ばすことも可能です。自分だけの空間であるガレージやコンテナハウスの壁を、自身のバイクやツーリングの思い出のある景色で彩ってみませんか。



株式会社ナイストゥハブ
TEL. 053-568-2229
〒435-0051　浜松市東区有玉北町207-2　1階
https://nicetohave.jp

Instagram

Enshu Siast's Choice!

家族の笑顔が絶えない遊び心を詰め込んだホビー空間

ディトナハウス【磐田市】Y's Hobby オーナー 山田政嗣さん







「RAT FINK」は奥様のコレクションを月1でテーマを決めてディスプレイ。飾り棚となっている階段は元々あった納屋についていた階段を残して再利用。これもオーナーのアイデア。



「SMILE CORPS!!」とは常に笑い声が絶えない山田家の印象から坂口氏が考えたオリジナルロゴ。軽トラックのあおりが背もたれとなる遊び心満点のチェアも山田さんの自作。

集まる人を幸せにする空間。

天竜川にほど近いのどかな田園地帯。大きな力ラス窓が目立つスタイリッシュな建物が立っている。その外観から素敵なお店だと勘違いして、訪ねてくる方も多いという。ここは家族と仲間が楽しく集えるホビールーム「Y's Hobby」。オーナーの山田さんは根っからの趣味人で、バイクは4ミニカスタムに嵌まり、SRやスクーターなども全て自分の好きなスタイルに。クルマは以前乗っていたTOYOTA TUNDRAから、現在はフルカスタムしたハイゼットトラックに乗り換え。「誰も乗っていないクルマが欲しくて乗り換えました。ベースは軽トラだけど(カスタムしているから)登録は普通車。費用も高級な普通車と同じになりました」とさらりと答える。そのハイゼットも納車後にさらに自分で手を加え、カスタム熱は止まることを知らず、まさに「熱中人」そのものである。建物の中に入ると、まるで雑貨屋さんのような空間が広がる。奥様の趣味である工アリアルヨガのカラフルなハンモックが効果的なアクセントになる空間は、椅子や机も山田さんの手作り。RAT FINKやETなどアメリカンテイストのグッズがディスプレイされ、壁にはSTINK SIGNS坂口氏の作品が飾られている。「悩みごとの相談でうちに来た友人が、この部屋で話していると、だんだん楽しい気分になり悩みを忘れてしまう。」とは奥様の弁。集う人を幸せにするポジティブな空間がそこにはあった。

質の良い建物を作るのは、施工会社の対応力の高さ。

Y's Hobbyを作るにあたり、山田さんが選んだのはディトナハウス。浜松市中区にある「balance design」が設計施工する遊び心にあふれたハウスブランドだ。ディトナハウスを選んだ理由を尋ねると「一番はデザイン性の高さです。作るからにはかっこいいスタイルで仲間が楽しく集える場所にしたかった。結果的にコストと柔軟な対応性でディトナハウスを選びました」とのこと。建物を構成する軽量鉄骨は粉体塗装が施され、長期に使うことを想定すると通常の鉄骨と比べてメンテナンスコストも抑えられる。ディトナハウスの質の高い部材も、魅力的なポイントだったという。建築関係の仕事をする山田さんは、基本プランも全て自分で考え、俯瞰の設計図も作っていた。「建築中どうしても譲れない部分が出て、最初からやり直してもらった箇所もあります。自分は同業者で細かい注文を出すけどいいですか、と施工前に尋ねたら『大丈夫です。任せてください』と心強い返事がいただけたのも決め手でした。」balance designの持つ豊富な経験と対応力があってこそ、この空間は生み出されたと言える。

家族全員が楽しめる、幸せな暮らしを支える居場所。

取材に訪れた当日は、ちょうど長男家族が遊びに来ていた。お兄ちゃんは部屋に入るとハンモックをブランコ代わりに超ゴキゲン。それを見守る家族全員が満面の笑顔になる。「仕事から帰って、Y's Hobbyの明かりが見えてくると、嬉しくてたまりません。帰ると母屋に行かずに直行するので、最初は妻から叱られました。今は家事が終わっていれば、妻もここで私を待っていてくれます。とても良い時間を過ごせて幸せです。」と笑顔で話してくれた。

昼間は両親が知り合いを招き、奥様は友人と食事会で時を忘れて話に夢中に、お孫さんは遊園地感覚で遊びに興じ、山田さんは仲間と楽しく集い語らい合う。3世代全員がそれぞれに楽しめるY's Hobbyは、山田家の幸せな暮らしを支える大切な居場所となっていた。



ダイハツ ハイゼットトラック

ターボ化されたエンジンは元より内外装・足回りの全てに手の入った渾身の1台。兵庫のショップでカスタマイズし、完成後はカヌーを積載するラックや荷台前方の収納などを自身の手で追架装。オーダー色のブラックを新車状態でグレーに全塗装したオーナーのこだわりには脱帽だ。



HONDA DAX & GORILLA

山田さんはバイクにも熱中する。2台のDAXは浜松仕様、左のGORILLAは次男が所有し、走り屋仕様にカスタマイズ。現在はさらに1台のカスタムが進行中。その他にSRフリスコ仕様やスクーターも所有し、その情熱は止まるところを知らない。自ら主催するクラブのプレートが誇らしい。



STINK SIGNS ART BOARD

ガレージカルチャーもY's Hobbyのテーマの一つ。STINK SIGNS坂口氏とは行きつけであるMumblesのオーナーとの縁で知り合った。リトグラフの他に、山田家のロゴとなっている「SMILE CORPS!!」に描かれたイラストの直筆の下絵も飾られる。



DAYTONA HOUSE × LDK HAMAMATSU

お問い合わせ：balance design株式会社
TEL. 053-482-7415
〒433-8111　浜松市中区葵西5-23-23
https://www.balancedesign.jp/

クラッチ部品を使用した「クラッチではない」新しいものづくりへの挑戦。

浜松市　株式会社エフ・シー・シー





農業界に新しい風と力を。感性に訴える機能とスタイルが結実。

周智郡森町　株式会社デイトナ

遠州企業の新たなる挑戦。

ものづくり精神と創造力が生んだ、ユニークかつアグレッシブなメッセージ。

大切なものは自分の手で守る。ライダーに迫り来るあらゆる「災害」を乗り越えるテクニックとは。

磐田市　ヤマハ発動機株式会社





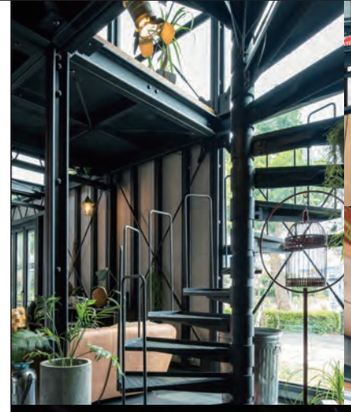
アルミホイールの世界ブランド「ENKEI」の99%を支える1%に秘められた創造性。

浜松市　エンケイ株式会社

二輪文化創造の地に創業当時の櫛谷商店が現れる？

浜松市　株式会社クシタニ











DH×L HAMAMATSU

DAYTONA HOUSE×LDK



趣味を謳歌し、人生を楽しむ空間。

デイトナハウスは、人生の創意工夫をテーマにした月刊誌『デイトナ』と、数多くの設計&建築を手掛けてきた『LDK』のコラボにより誕生した建築の新しいカタチです。『デイトナ』は、その独自の観点の誌面作りを通して“新たなライフスタイルの提案”というソフト面を担い、バランスデザインは軽量鉄骨建築システム『LGS』を用いて、その趣味性に富んだオーナーの受け皿となる建物を担当します。









What's balance design?

遠州エリアでデイトナハウスの施工、運営するのがbalance design（バランスデザイン）です。「理想と現実」、「想いと想い」、「今と未来」という建物において、大切なバランスを常に考えながら、理想の空間を提案いたします。

balance design

バランスデザイン株式会社

〒433-8111 静岡県浜松市中区葵西5-23-23
TEL. 053-482-7415 / FAX. 053-482-7004
お問い合わせ専用ダイヤル **050-3066-8943**
https://www.balancedesign.jp/

クラッチ部品を使用した「クラッチではない」新しいものづくりへの挑戦。

遠州が世界に誇るクラッチメーカー、株式会社エフ・シー・シーがライダー向けキャンプ用焚き火台[Moto Grill]を製品化した。「なぜエフ・シー・シーが焚き火台を開発することとなったか」さまざまな試練を乗り越えて、製品化にこぎつけた経緯を開発スタッフに取材した。



何度も試作を繰り返してたどり着いたのは本物のクラッチの構造を応用した形態。そこに至る過程は多くの財産を生み出した。

なぜ焚き火台という新たな挑戦が許されたか。

ものづくりの町、浜松で創業し、クラッチメーカーとして世界に製品を供給するエフ・シー・シー。バイク乗りにとっては、TSRとタッグを組み2018年EWC世界耐久選手権でチャンピオンを獲得したことも記憶に新しい。

そんな同社が、全く未知の分野である『焚き火台づくり』に少数精鋭のプロジェクトチームで挑んだ。発案者は新事業開発部の青島氏。「自分たちの技術力を活かして、クラッチ以外の新しいものづくりにチャレンジしたい」という決心が、新しいものづくり文化を醸成するという会社の理念と合致した。同社が昨年スタートさせた人材育成プログラムの一つとしてプロジェクトは承認された。青島氏が以前所属した生産技術センター長の中田氏に相談を持ちかけると、同氏が声を掛け、柴田・宮本の両氏がプロジェクトに賛同した。

最初の課題は「何を製品化するか」。これまではメーカーから発注された要件を、どう達成するかが仕事だった。一から製品を企画するという未経験の領域に、みんなでアイデアを出し合った。候補として、ワイングラス・キャンプ用ペグセット・シャンパンオープナーなどが挙がった。どれもエフ・シー・シーの金属加工技術を活用したアイテムだったが議論を重ねる中で「バイクやキャンプって楽しさがある。作るなら使う人が楽しめる道具を作りたい」という想いから、ライダー向けの「焚き火台」づくりが決定した。



クラッチプレート状のパーツを柱にはめて固定する。ミリ単位の精度で製造されたパーツはガタつき、ぐらつきを抑え、抜群の安定感を誇る。

エフ・シー・シーにしか作れないものを創造する。

次の課題は設計と試作。世の中にあるさまざまな焚き火台を確認し、見えない形を少しずつ創造していった。試作した焚き火台を自分たちで使ってみて検証、さらに改良を重ねて、ある程度納得した試作が完成した。

完成した試作品を上位者に確認してもらうと「物としては良く出来ているが、エフ・シーらしさが欠けている」と意見をもらった。他では作れない「エフ・シーらしさが焚き火台を作るとこうなる」という独創性が課せられた。チーム内で議論を深めると「エフ・シー・シーらしさ＝クラッチ」という発想が浮かんだ。「クラッチプレートを柱で支えて、組み立て式の焚き火台にすれば、ライダーが楽しんで使ってもらえる」と一気にアイデアが具体化した。









ライダーのための焚き火台。そのコンセプトを体感するために、ぜひ焚き火台越しのバイクというシチュエーションで楽しんで欲しい。

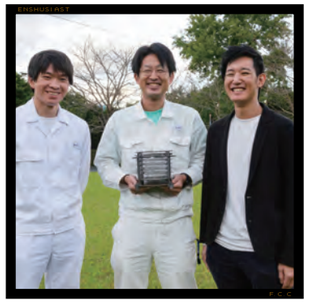
当初プロジェクトは試作が完成するまでがゴールだった。しかし試作が完成すると、メンバーは更なる欲求に駆られた。「これを実際に販売して、直接ライダーの反応を知りたい」。会社に成果確認としてクラウドファンディングでの出品許可の承認をもらい、今年の6月からクラウドファンディングを開始、見事目標を達成。11月を目処に購入者の手元に届くこととなった。昨年8月から開始されたプロジェクトは、エフ・シー・シーの新たな挑戦として見事花を咲かせた。

多くの人の手を経て完成したものづくりの新たなる原点。

今回の取り組みについてメンバーに尋ねると「製品化には社内外を問わず多くの方の助けや助言がありました。決して私たちだけで製品化出来たのではありません」と答えた。試作品を渚園に持ち込んだ際は、キャンプ場のスタッフから貴重な助言が得られた。最初は焚き火台には必須の『灰受け』も未装着であったという。製品は金属製の缶でバッキングされるが、そのままではバイクの走行中に中で踊ってしまう。それを防止する樹脂製の押さえを製作。これは人材育成プログラムの一つである「3Dプリンターによるものづくりプロジェクト」チームとの合作で出来上がった。社内のバイク乗りにも実際に使ってもらい、そこで得られた声やアイデアを製品に反映。製品の最終形になるまでに6代の試作を重ねた。

前出の渚園ではライダーから「エフ・シー・シーさんじゃないですか」と声を掛けられ驚いた。「うちの会社のファンであるライダーが多いことにびっくりしました。我が社を愛してくれるライダーに喜ばれる製品を作ろうとさらに意欲が湧きました。」

クラウドファンディングに賛同した129名に製品が届くとき、その品質や精度の高さは大いに所有欲を満たすこととなるに違いない。今回のプロジェクトはエフ・シー・シーの長いものづくりの歴史に新たなページを開いたと言っても過言ではないだろう。





F.C.C. TSR Honda Franceとして、世界耐久選手権に参戦中。ホンダF1マシンの動態保存でも、当時のクラッチを同社生産技術センターが再生している。

株式会社
エフ・シー・シー

生産技術センター
第2技術ブロック　柴田善康
製作ブロック　宮本泰成

新事業開発部
企画課　青島皓正

浜松市北区細江町中川7000番地の36
https://www.fcc-net.co.jp/

最大の特長である「リンク式サスペンション」という機能をそのままボディデザインのアクセントとして採用。そのメカニカルな姿はライダーならずともグッとくるものがある。



GOOD DESIGN AWARD 2021

農業界に新しい風と力を。
感性に訴える機能とスタイルが結実。

遠州森町の（株）デイトナが、斬新なアイデアを盛り込んで製作したカルチベーター（耕うん機）「DC2S」。
これまでの耕うん作業を、バイク乗りの視点で見つめ直すことで、新しい市場を開拓。
パーツメーカーならではの社風と経験から生まれた、デイトナの新規事業にスポットを当ててみた。

バイク乗りならではの視点で

1972年の創業から来年で50年を迎えるバイクのアフターパーツメーカー、株式会社デイトナ。国内初の二輪用キャストホイール「セブンスターホイール」をはじめ、現在もブレーキパッドの定番となっている「赤パッド」など、多くのバイク用アフターパーツを企画、製作、発売し、日本中のライダーたちに愛され続けてきた。

長年培われたその技術と独創的な姿勢は、モーターサイクルという枠にとどまらず、2010年に新規事業部を創設。2015年にはフレームデザインからほぼオリジナル設計となった、折り畳み式電動アシスト自転車「DE01」を発表、自転車市場に新たな風を吹き込んだ。

今回紹介するカルチベーター（耕うん機）「DC2S」もリンク式サスペンションを搭載した、デイトナらしい発想から生み出された1台。

開発の背景には、デイトナの代表取締役社長である織田哲司氏が、家族が楽しむ家庭菜園の手伝いをする際にミニ耕うん機が跳ねてしまってうまく使えなかったという苦い体験があった。織田氏はそれ以降、バイク乗りとして、かつカスタムパーツメーカーならではの視点で、農業系専門店で話を聞いたり、知識を身につけた上で「耕うん機にもオフロードバイクのようなサスペンションがあればもう少し楽に作業できるのではないか」という結論に至った。

機能と操作性を兼ね備えた新しい耕うん機の製作

デイトナは創業時から「ないものは作ればいい」という社風があり、織田氏も早速そのアイデアを社に持ち帰り、スタッフと共に新たなプロジェクトチームを立ち上げた。開発チームリーダーとなったのは二輪事業部GMDグループの伊藤博之氏。伊藤氏は織田氏同様、二輪車においては経験も知識も豊富であったが、まさか自分が畑違いの耕うん機の設計を担当するとは思ってもいなかったという。

しかし設計を進めていく内に、織田氏の思いと、元来持ち合わせたものづくり精神に火がつき、これまで前例のない「機能と操作性を兼ね備えた新しい耕うん機の製作」というミッションを遂行すべく、試行錯誤の日々が始まった。耕うん部は老舗農機メーカーとのコラボレーションとし、機能性の向上を図った。さらに「デイトナらしい独創性」を前面に出すために、伊藤氏はバイク乗りの感性に訴えかけるスタイリングに注視した。こうして完成したのがリンク式サスペンションを搭載した、まったく新しい耕うん機「DC2S」だ。

その存在感が評価されグッドデザイン賞を受賞

「DC2S」は結果としてこれから農園を始める初心者にはもちろん、既存のユーザーに対しても説得力のあるものとなり評価されている。



ビビットなデイトナオレンジと機能美が自然の中に違和感なく溶け込む。

さらにMTBトレイルやドッグラン、ゴルフ場、キャンプ場など土を使うアウトドアリクリエーション施設などに導入されるなど、これまでとは違う市場を開拓することもできた。

こうした思いの積み重ねが実を結び、今年の10月には公益財団法人日本デザイン振興会が主催する「2021年グッドデザイン賞」を受賞するに至った。

実際（筆者も愛用者のひとり）最大の特長であるリンク式サスペンションを生かした機能美とデイトナオレンジでまとめられたボディデザインは畑の緑や土色に映え、デイトナ製の二輪車用カスタムグリップと相まって、まるで欧州のオフロードバイクを運転しているような気分にさせてくれる。

搭載された50cc、4ストロークエンジンはとても静かで、サスペンションの効果もあって作業もスムーズ。住宅地での家庭菜園でも気兼ねなく使用できるのは嬉しい。

さらに新しい市場の開拓へ

折り畳み式電動アシスト自転車「DE01」から始まったデイトナの市場開拓は、耕うん機だけにとどまらず、雪国で活躍する除雪機や、宅配事業、カーボンニュートラルの実現に向けた電動乗物事業など、さまざまな取り組みが行われている。

これまでの50年を挑戦の歴史とするなら、これからの50年は、また新たな挑戦の始まりとも言えるだろう。

今後、遠州森町から吹く風が、バイク文化だけではなく、多ジャンルに渡り大きな影響を与える風になることは間違いない。







リンク式サスペンションによりハンドルからの力を効率良くボディに伝え、ブレード（耕うん爪）を地中深く食い込ませることが可能になった。ハンドルグリップはバイク用そのもの。耕うん作業のモチベーションも高まる。





デイトナが手がけた新規事業のカタチ。上から折りたたみ式電動アシスト自転車「DE01」、除雪機「DS9260」。



二輪事業部
GMDグループ
伊藤 博之

商品開発の中軸として数多くのカスタマイズパーツを世に送り出してきたが、近年はその技術と経験を生かして新たなフィールドに挑戦。DC2Sのデザインにもその卓越したセンスが息づいている。

DC2Sサイト
https://myfarm-daytona.jp

DAYTONA®
株式会社デイトナ
周智郡森町一宮4805
TEL: 0538-84-2200（代表）
www.daytona.co.jp

大切なものは自分の手で守る。ライダーに迫り来るあらゆる「災害」を乗り越えるテクニックとは。

2020年、ヤマハ発動機が「防災」をテーマにした「FIST AID」というプロジェクトを立ち上げた。毎年のように起きる震災や台風などの災害に、われわれライダーが普段から備えられることは何であるか。バイクメーカーが発信した新たなる取り組みに大いに興味をそそられた。プロジェクトのキーパーソンに、その核心を取材した。

災害時における バイクの果たす役割とは

「FIST AID」プロジェクトを発案・主導した西村氏が「防災」を意識したのは、自身の体験がきっかけだったという。

「災害時にバイクが役立つことに気付いたのは、生まれ故郷の鹿児島が水害にあったとき。スペアエンジンと工具一式を積んで、分断した幹線道路を避けてどうにか被災地に入り、当時最も重要なインフラであった郵政バイクの掘り起こしと分解清掃にあたりました。阪神大震災や東日本大震災のときも、初期の救援にはバイクが活躍。近年、日本各地で災害が発生し、われわれメーカーもバイクが『防災』に役立つことを発信しなければならないと考え、今回のプロジェクトをスタートさせました。」

普段は楽しく、有事の際には役に立つ

バイクとは楽しい乗り物である。同時に走り続けていないと転倒するという、楽しさとリスクが表裏一体のものである。ヤマハ発動機は「感動創造」を企業理念として、楽しさをバイク作りの根底にしている。「防災」をテーマにした「FIST AID」も例外ではないという。

「ライダーにいきなり『防災に備えよう』と声高に叫んでも、普段できていないことは、災害が起きても対応などできないでしょう。創業者の川上源一も「居安思危＝安きにあって危うきを思う」という言葉を残しています。そこで、日々のライディングにも役立つ知識や情報を網羅したサイトを立ち上げ、情報を蓄積することとしました。さらにクラウドファンディングで賛同者を募り、防災に役立つ知識を1冊のハンドブックにまとめました。」

「防災ライダー100のテクニック」としてイラストが多用されたハンドブックは、ライダーならすんなりと理解ができる。楽しんでいるうちに防災ライダーを育てる素晴らしい仕上がりだ。

2021年10月、危機管理産業展・RISCON TOKYOでは、新たなキーワード「PLAY SURVIVE 遊んで備える」を掲げ、ヤマハ発動機が手がける二輪・救難艇・発電機などのコンセプトモデルを発表した。基地をイメージしたコンテナベースの展示ブースは、イエロー×ブラックのテーマカラーとともに、遊び心をそそられる。普段から楽しんで「遊ぶ」ことが、いざという時の「備え」になることを視覚的にも表現している。

RISCONの展示を主導した小川氏が語ってくれた。

「会場内のアンケートでは、約9割の方から『遊んで備える』というコンセプトに共感をいただきました。プロジェクトを始めるとき、自衛隊などの最前線で活躍するプロたちから『防災には遊びの精神が必要』という話を聞きました。いつ災害が起きるかわからない現場では、ストイックに備えるだけでは継続は難しい。普段の活動に『遊び心』を持って取り組むことが当たり前だったのです。同時に広範囲に起きる災害時には、一般人の協力が不可欠とも言われました。われわれのような楽しさを提供している企業が、もっと防災に重要な役割を果たしていけると思っています。」

防災の新しいスタイル
PLAY SURVIVE
遊んで 備える



RISCON TOKYOでは、地元のダイナオガレージに依頼して展示ブースを製作。内部に二輪・ボートなどの防災装備を保管でき、普段は遊びに、いざという時はいつでも出動できる「基地」をイメージした。



至る所に遊び心があふれる展示の数々。普段から楽しみながら、いざという時に「備える」ことができそうである。



コンテナ内に設置されたアートボード。黒板に全て手描きされ「FIST AID」や「居安思危」といったコンセプトを緻密なグラフィックで表現。



YAMAHA
ヤマハ発動機株式会社
クリエイティブ本部
小川岳大

2003年にヤマハ発動機入社。
広報宣伝部などを経て、現在はクリエイティブ本部ブランドマーケティング部に在籍。
最近は廃墟や空き家などをワン&オンリーのコンセプトハウスに再生することを趣味としている。
愛車はXS650 Special。

これからの時代、バイクが社会の助けになる

ヤマハ発動機が提案する新たな試みは、われわれライダーが普段楽しみとしていることが、自分や周りの人を助けることにつながることとして、自然な形で示してくれる。これからのライダーに求められるのは、より一層の社会との適応であろう。バイクに乗らない人が、いざという時にライダーに助けられる。そんな経験が増えていくほど、バイクは「人に優しい乗り物」として認知され、バイクとライダーの社会的地位も向上する。これからもずっとバイクを楽しむために、そして大切なものを守るために、ライダーができることの可能性を、今回のプロジェクトは新たな視点で提示している。

PRESENT◆冊子「防災ライダー 100のテクニック」をエンシュージアスト読者10名の方にプレゼント。詳しくはP.58をご覧ください。

遠州企業の新たなる挑戦。
エンケイ株式会社

RPF1 /RPF1RS
F1用ホイールのイメージを踏襲した
ライトウェイトスポーツホイール
機能とデザインを両立した「エンケイ
らしさ」を代表するホイールのひとつ



アルミホイールの世界ブランド「ENKEI」の99%を支える1%に秘められた創造性。

「ENKEI」といえば車好きなら
さまざまなレースシーンでマシンの足元を支えるホイールや、
「ENKEI」ブランドのホイールをすぐに連想できる、
遠州発、世界有数のアルミホイールメーカーだ。
そのブランドを支えるモノづくりへのこだわりとは？

One Step Forward 常に先を見据えて

「ENKEI（以下エンケイ）」は1950年「遠州軽合金株式会社」として浜松市で創業。戦前の航空機部品製造のアルミ鋳造技術のノウハウを活かし、本田宗一郎氏との縁でバイクのエンジン部品の製造に着手。さらにそこで培った重力鋳造の技術をもとに、1967年、国内ではまだほとんど認知されていなかったアルミホイールを製造し、アメリカへの輸出を開始。そして、1970年から国内アフターマーケット向けのアルミホイールの生産を開始し、その製造技術を評価され、1978年から国内自動車メーカーにアルミホイールをOEM供給するに至った。

「One Step Forward（ちょびっとだけ、先へ）」を合言葉に、現状にとどまらず、常に先を見据えて技術を磨き、市場を捉えてきたからこそのステップだろう。

F1をはじめ、SUPER GT・SUPER FORMULA・ラリーなどレースシーンにもホイールを供給し、オリジナルブランド製品を国内外で積極的に展開するイメージのエンケイ。しかし、意外にもアルミ鋳造製品のうち、エンジン部品を含め、OEMホイールの生産量が99%、アフターマーケット向けのオリジナルブランド製品が占める割合はわずか1%に過ぎないという。しかし、その1%にこそエンケイのホイールづくりへのこだわり、技術力といった本質が凝縮されている。

1%があるからこそ生み出せる99%

エンケイは、ホイール開発当初から、企画・デザインから製造までを一貫して社内で手がけたオリジナル製品を世に送り出し、あわせてレース用ホイールの開発に関わってきた。

現在も定期的に行われる「ブランド会議」では、役職や部署を超えて集まったメンバーで、デザインの方向性や、それを実現するための技術について、毎回熱い議論が交わされる。それをデザインチームが具現化し、ブランド価値のあるオリジナル製品が生み出されていく。

レースシーンにホイールを供給する窓口となる技術開発統括本部・先行技術グループの田中氏はこう語る。

「私たちがレースに供給しているホイールは、その1%のさらに0.1%未満でしょうか（笑）。勝つためのホイールを作るために、レース車両のレギュレーションに合わせた最高の剛性・強度・重量、それを実現する技術力が要求される世界です。そこで積み上げてきた実績と、設計や製造段階での技術の研鑽は、エンケイブランド製品にもOEM製品にもフィードバックされています。」

レースから直結したホイールのデザインはエンケイブランドの大きな魅力の一つだ。

オリジナル製品、OEM製品含めて生産のための設計を担う、同本部・設計解析グループの金谷氏がそれを受けて続ける。

「レースで使用されるホイールと、市販品では材質も製法も違うんです。でも、その機能美を欲しがるのは車好きの性（さが）ですよね。私の部署ではそれを量産品として販売できるように、先行技術グループと連携してリデザイン・量産設計を行っています。レーシングシリーズに限らず、すべてのホイールで機能も素材も意匠も正しくデザインされた、エンケイらしい製品を目指し、それを実現するために絶えず技術を積み重ねています。」

「360°PERFECT WHEELS」のスローガンの下、完成に至る工程を含め、どこから見ても完璧な仕上がり。見えない部分の仕上げにもこだわり、そこにこそ製品の価値が現れるという考えは、エンケイらしさの一面だろう。

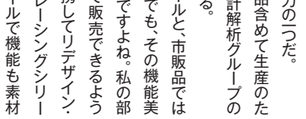
たかがホイール、されどホイール。

車を取り巻く環境やカーデザイン、車の性能は時代とともに変化している。そんな流れの中、自分たちの思い描く形を実現するために、レースで勝つためのホイールを作るために、それを市販の製品にフィードバックするために、絶えず前に進み続けるエンケイの創造性や、ブレイクスルーを続ける製造技術の進化は、1%のオリジナルブランド製品での企画・開発力が根幹となっているのだ。

「たかがホイール」…あくまで主役は車でホイールは脇を固める助演的なもの。

「されどホイール」…ホイールは車の動力を伝える重要な機能部品であり、車のデザインの印象を大きく変えるものでもある。

こだわりぬいて作られる1%のホイールは、99%に繋がる「創造の種」と言えるだろう。だからこそ全ての製品に100%エンケイらしさが息づいているのだ。



技術開発統括本部
設計解析グループ　課長
金谷繁憲

製品の「エンケイらしさ」を実現するために、機能、素材、虚飾のないデザインを常に考え設計に携わる。



技術開発統括本部
先行技術グループ　課長
田中真志

シーズン中、週末はほぼサーキットへ。レース当事者から現場でヒアリングする生の声は開発の糧となる。

両名の所属する技術統括本部がエンケイの製品開発の中核となる。時には自動車メーカーから、デザインを含めた「0」の状態から依頼されるOEMホイール開発も、オリジナルブランドを生み出すソフト・ハードの総合力があってこそだといえるだろう。

ENKEI
エンケイ株式会社
浜松市中区板屋町111-2
アクトタワー26F
TEL: 053-451-0115
https://www.enkei.co.jp

デザインや構造によってホイールの製造方法は異なり、工場内は製造工程の機械化、金型の進化が進んでいる。生産拠点は国内にとどまらず、アメリカ、タイ、マレーシア、中国、インドネシア、フィリピン、インド、ベトナムにも工場を持つ（写真はエンケイ豊岡工場）

SUPER GT、SUPER FORMULAのピットに並ぶレーシングタイヤを纏ったエンケイホイール

二輪文化創造の地に創業当時の櫛谷商店が現れる?



株式会社クシタニ
代表取締役社長
櫛谷淳一

クシタニ入社後から営業を担当。その後はアメリカに駐在して、海外の営業活動に従事する。現在は主に駐留先のタイから、現地法人とアジア・世界のクシタニの活動を統率する。

株式会社クシタニ
会長　櫛谷 久

2代目社長として全国にプロショップを展開し、クシタニブランドを全国のライダーに浸透させた。現役ライダーとして複数台のバイクを所有し、仲間とのツーリングを楽しむ生粋のモーターサイクルエンスージアスト。

日本のバイクのふるさと＝浜松を創業の地とするクシタニが、2021年に本店をリニューアルした。スタイリッシュな外観の奥には、創業から変わらない熱い想いの詰まった空間があった。



クシタニロゴが取り付けられた本店外観は、その規模の大きさに圧倒される。駐車スペースも広く、バイク・車どちらでも気軽に立ち寄れる。



黒で統一された、広々とした吹き抜け空間で、気になるウェアをじっくり選べる。



吹き抜け空間を回廊で繋いだ2階スペース、立体的な導線が、ワクワク感を演出する。

創業時の想いをそのままに。テーマはキープ・コンセプト。

浜松の中心部を縦断する中田島街道を南に下る。クシタニ本社ビルへと続く交差点を通り過ぎた先、左手に黒塗りの巨大なウェアハウス風の建物が見えてくる。ここが新たにリニューアルされた旗艦店、クシタニプロショップ浜松本店だ。

現社長であり三代目の淳一氏に伺うと、

「移転はかなり前から計画していました。独立した店舗だった本店を本社の1階に移したのが20年前。ここ数年、ZEOPASA清水や横浜M&Wへの出店など新しいコンセプトの店を次々とオープンしましたが、本店はイメージも古いまま、販売拠点としても手狭で何とかしたいと考えていました。今はネット販売も盛んですが、私は営業畑の出身で対面での接客が原点です。新本店は、お客様がクシタニの歴史に触れるミュージアムや職人のものづくり精神を体験できるワークショップがあり、スタッフ・仲間とゆったり語らうことのできる居心地の良い空間を作りました。販売だけでなく、補修やメンテナンスで良いものを長く楽しんでもらう。『お客様に喜んでいただくことが一番』という想いは創業の時代から変わりません。店の姿は新しくなりましたが、テーマはあくまで『キープ・コンセプト』。ここからバイクの楽しみを広げてもらえるような新たな始まりの場ができたと思います。」



ミシンが並ぶスペースでは、パンツの裾上げや簡単な修繕など、クシタニの誇る職人技を間近で見ることができる。





三輪自転車の屋台風カフェが新たに常設。
クシタニカフェ舘山寺と本店でしか味わえない限定フレーバーのジェラートでほっと一息

KUSHITANI®
HAMAMATSU

We create the safety world.

www.kushitani.co.jp



柳谷商店の再現は「温故知新」、過去と未来をつなげていく。

クシタニを全国的なブランドに育てた2代目社長・現会長の久氏が、創業時の「柳谷商店」について語ってくれた。

「新本店の中に、私が少年時代に父母が営んでいた柳谷商店がそのまま再現されてびっくりしました。当時の柳谷商店は革製のジャケットやバッグ・小物を作っていて、職人さんが手作りした商品を、そのまま店頭に並べていた時代。あの頃はスズライトに商品を積んで届けたり、ここにあるYDS3とラビットも当時のまま。ベテランライダーと若いライダーが話のきっかけを作って交流できる良い場所ができたと思っています。」

「当時は高い建物もなくて、浜松からも富士山が綺麗に見えました。世界に日本をアピールするために、中学生だった私が描いた富士山の絵が、今も続く富士山マークのルーツです。職人さんたちも喜んでくれて、うちのものづくりの誇りの象徴だと思っています。」

「うちがバイク用品を作り始めたのは、父とスズキの伊藤利一さんが知り合いだったことから。レースに出るライダーのために国産の革ツナギが作れないかと相談されたことがきっかけです。バイク用の服なんて経験がなかったですが『喜んでくれるなら何とかやってみましょう』とみんなで試行錯誤しながら作ったそうです。当時外国メーカーの革ツナギは成牛が一般的、丈夫だけど硬くて重かった。対してうちのツナギは仔牛革を使いました。薄くて軽く、着始めからピッタリ馴染んで好評でした。それが口コミで広がり、海外のライダーからもクシタニを着て走りたいと言われるようになっていきました。加工技術が進み、今はクシタニも成牛を使って、丈夫だけど柔らかい着心地を両立しています。」





生粋のバイク人であるお二人からは、バイク愛に溢れた熱い情熱が伝わってきた。



看板や板塀までリアルに再現され、昭和にタイムスリップしたような気分に。

お客様を喜ばせるという想いはずっと変わらない。

レースウェア製造から始まったクシタニは、常に新しい技術やデザインを取り入れて進化を続け、われわれ街乗りライダーのライディンググウェアづくりにも活かされている。

「今では当たり前のフード付ライディンググウェア開発も、最初は社内で賛否両論がありました。ライディングに余分なものは要らないという意見もありましたが、現代のライダーは皆さんスタイリッシュで、バイクを降りてからのスタイルも重要視します。主役はあくまでライダーで、私たちメーカーは裏方。ライダーの声を聞き、いかに気持ちよくバイクを楽しんでもらえるかが一番大事です。良いものづくりとともに、CBMやKUSHITANI CAFEなど、バイクの楽しさを感じていただく取組みをこれからも続けていきます。」



レザースーツのオーダーは、実際にマシンに跨って走行中の姿勢をチェックする。

KUSHITANI
HAMAMATSU

KUSHITANI PROSHOP 浜松本店

浜松市南区白羽町662-1
TEL.053-488-8884
定休日:水・木曜日
営業時間:10:00~19:00



シーズン毎に展開される新製品も豊富に並び、じっくりと自分に合ったスタイルを構築できる。



久会長が生み出したEXジーンズは「革製のジーンズ」という唯一無二の存在、ツーリングライダーには伝説的な商品だ。

私を月に連れてって!!

綺麗な月を眺めていたら、彼女が「月に行ってみたい」と言い出した。「よーし、任せとけ!」と強気な彼氏。本当に大丈夫なのか?





サイクルショップ やまもと / TAKOYAKI kinoko



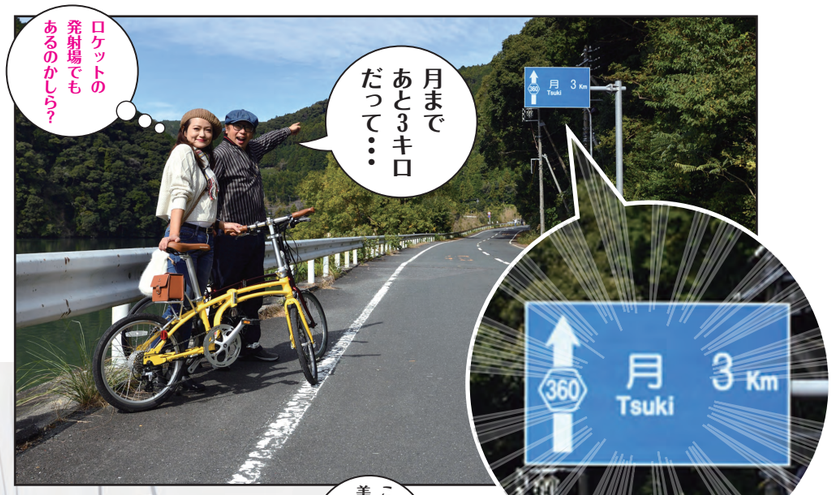


天竜エリアは自転車で走っても、バイクで走っても気持ちいいところがいっぱい!















六間道路グランプリ

いよいよ完結編!!

絵と文
アジトイシヅカ



歴史の目撃者たちによって
今、その真実が明かされる…

東海道（国道1号線）宮竹町交差点から少し南、
浜松市街を西に向かって伸びる道幅六間（およそ11m）の道路。
その道幅から「六間道路」と呼ばれ、
軍施設に資材を運ぶ関係から市内でもいち早く舗装された道だった。
長い直線と、坂道、ヘアピンカーブのあるこの道を舞台に、
太平洋戦争終戦後の浜松の復興とシンクロするかのように
自らの工場で作り上げたオートバイで、
日々性能を競い合い走り抜けた男たちが居た。

果たして次号も掲載はあるのか?

好評の「彼氏と彼女シリーズ」が読めるのはエンシュージアストだけ!



提供

株式会社デイトナ 周智郡森町一宮4805 0120-60-4955
DAYTONA公式サイト https://www.daytona.co.jp/
Daytona PotteringBike https://www.potteringbike.jp



https://youtu.be/wRoyjocTuAQ

DE01の詳細については こちらから ▶

DE01 PVは こちらから ▶

https://www.cycleshopyamamoto.com

取材協力

サイクルショップ やまもと / TAKOYAKI kinoko
浜松市北区都田町6409-1 TEL.053-428-2044
営業時間：9:00〜19:00（日曜日は18:00まで）
定休日：毎週水曜日/祝日（併設のTAKOYAKI kinokoの営業日は要問合せ）

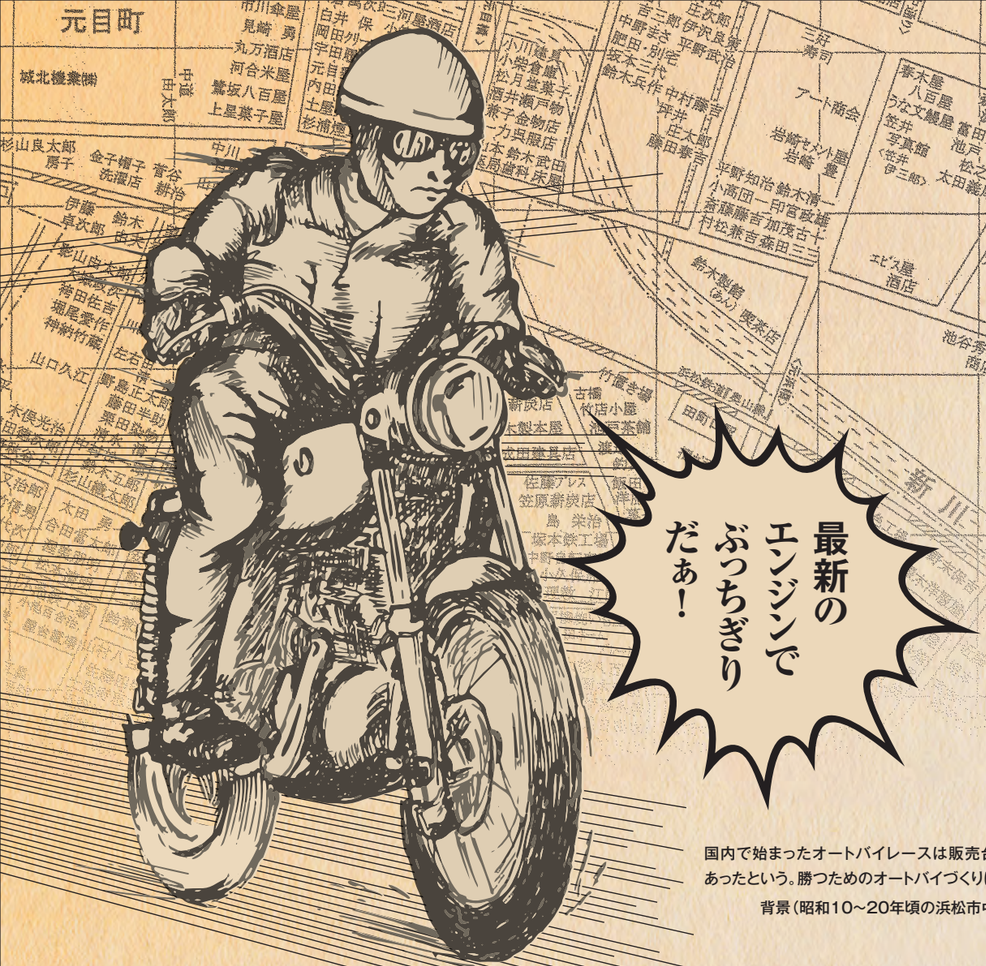
Nel Cafe マイルストーン
浜松市天竜区横山町711 TEL.0539-23-1250
営業時間：10:00〜18:00 定休日：水曜日



今回も彼女役 mitsunoshima jam artist Ayako Agehari

手作りジャムの「ミツノシマ」主宰。
もはやこのシリーズにはなくてはならない存在に。DE01のPVにも出演していますので、ぜひご覧ください。

六間道路グランプリ



国内で始まったオートバイレースは販売台数に直結する宣伝の場でもあったという。勝つためのオートバイづくりに各メーカーが邁進していた。

背景（昭和10～20年頃の浜松市中央部・住宅/商店街復元地図）
提供:小西貴氏（浜松市）



現在の六間道路（東海道との交差点付近）。今は試験走行が行われていた当時の面影を残すところは少ない。



昭和30年代後半の浜松市街空撮。下町には戦後の復興を経て町工場がひしめいていた。

写真提供:高須修 氏（浜松市在住）

古くからものづくりの街。焼け野原になっても消えなかったものづくりの火。

浜松は東海道の中心にあり、東西の文化が往来する地域性の中で、よそ者を受け入れる土壌や自主・独立の気風が育った。江戸時代から綿織物の製造が盛んで、織機の製造に伴い木工や鋳物技術が浸透していった。二宮尊徳による報徳思想の普及もあって勤労意識が高まり、明治以降の街の発展につながっている。

大正時代には、鉄道院浜松工場の誘致で当時最高レベルの技術が集結、「ものづくりの街」の基礎を築く。

第二次大戦時には艦砲射撃によって、浜松市街はほぼ焼け野原となったが、それでも「ものづくり」の火は消えなかった。

次々に名乗りをあげるメーカー。当時六間道路はオートバイのテストコースでもあった。

戦後、織機製造で培った精密な機械づくりと鋳造の技術を活かし、オートバイの製造に乗り出す工場が続々と現れ、多い時は市内に30社を超えるメーカーが存在した。

中でも、浜松市街を東西に走る六間道路の沿線には「本田技研」を始め、ライラックの「丸正自動車」、ライナー号の「北川自動車工業」など、大小多くのメーカーが工場を構えていた。

そこで作られたオートバイの性能を試すには、舗装された長い直線、坂道、カーブと変化のある六間道路は最適の道だったに違いない。

自転車に補助エンジンを取り付けるスタイルから、瞬く間に専用フレームを持つ、現在のオートバイに通じる構造へと進化し、徐々に上がっていく性能とともに、開発力のない工場は次々に淘汰され、生き残りをかけて自社のオートバイの速さを日々競い合う、まさに「六間道路グランプリ」がこの道で繰り広げられていたのだ。



昭和20年代後半の浜松街なかの有楽街。街の活気や当時のライダーの風俗がうかがえる。

写真提供:赤堀俊彦氏（浜松市在住）



国産オートバイの普及とともに、ツーリングを「遠乗り」と呼び、仲間と旅する愛好家も増えてきた。

写真提供:赤堀俊彦氏（浜松市在住）

六間道路を走るオートバイを幼い頃から見てきた。

川島モータース会長　川嶋光恵氏

六間道路が長い平坦な直線から勾配のついた道へと変わる城北地区で、昭和22年から川島自転車として店を構えていた、現・川島モーターズの川嶋光恵会長は、幼い頃から目の前の六間道路を駆け抜けるオートバイを見てきた。

「物心ついた頃はまだ浜松は焼け野原でした。親父が苦労して、なんとか場所を見つけて六間道路沿いに店を出した時は、まだまだオートバイは商売にならなくて、当初は自転車の修理が主な仕事でした。」

しかし、その年には本田技研が初の自社エンジンを製造し、それに続けと技術を競い合い、さまざまな工場で生まれたオートバイが、六間道路でその性能を競い合うようになっていく。

「ちょうど坂にさしかかるあたりに、いろんな会社のオートバイが集まってましたね。それぞれ競い合うライバルメーカーではあるけど、ともに技術を磨く仲間のような雰囲気もありました。」

その頃は、完成からすぐの試験を六間道路で行い、その後、当時未舗装路ばかりだった浜名湖沿岸を一回りするのが試験走行の定番だった。

「うちの親父が本田さん（本田宗一郎氏）と懇意で、時々試作のバイクを預かったり、作業場を貸したりしてました。一緒に仕事しないかとも誘われてたそうなんですが、断っちゃったらしいんですよ。その時いい返事をしてたら、川島モータースも違う方向に行ってたかもしれませんね（笑）。」

店先にバイクが並ぶようになり、オートバイ乗りを身近に感じる中、自身もオートバイへの興味が募っていったという。

「13歳の時、スエーデン人の宣教師が、整備に持ってきたバスクバーナに乗せてもらって、ヨーロッパのオートバイの先進性、素晴らしさを実感しました。国産車もだんだん性能が上がってきて、六間道路を走る姿を見るのは楽しみの一つでした。」



川島モータース会長
川嶋光恵氏
昭和15年生まれ。浜松のオートバイ業界の重鎮であり、開発競争の舞台となった六間道路の様子を知る人物である。

SINCE 1947・・・



友人とツーリングで走るのが何より楽しかった。
手前よりヤマハXS650、川嶋会長とホンダドリームCB450、友人とヤマハXS-1。



川島モータースの創業は1947年、創業者の川嶋貞一（左）から現会長の川嶋光恵（右）が経営を引き継いだ。誰よりも仕事熱心で遠州のライダー達から頼られる存在となった。



バイクメーカーが軒を連ねていた六軒道路沿いの旧店舗。多くのライダーが憧れのバイクを求めて集まってきた。

六間道路からバイク文化を見守る。

川島モータースは創業74年を迎える、遠州地域では最も歴史のある二輪の総合販売ディーラーです。
これまで多くの二輪メーカーとともに「バイクのふるさと」としての文化を創造してきました。
これからも川島モータースは「バイクに夢を乗せて」走り続けます。







取扱メーカー

HONDA YAMAHA SUZUKI Kawasaki KTM aprilia MOTO GUZZI Vespa KYMCO



城北本店
〒432-8011 浜松市中区城北1-10-8
TEL.053-471-2543
営業時間：ショールーム9:30~19:00、
サービス工場9:30~18:00
休業日：木曜日



元浜店
〒430-0942 浜松市中区元浜町76-5
TEL.053-478-0877
営業時間：ショールーム9:30~19:00、
サービス工場9:30~18:00
休業日：水曜日



カワサキ プラザ浜松
〒432-8061 浜松市西区入野町10001
TEL.053-415-1177
営業時間：10:00~19:00
休業日：水曜日、第2·4木曜日



カワサキプラザ豊橋
〒440-0092 愛知県豊橋市瓜郷町一新替67-1
TEL.0532-26-2277
営業時間：10:00~19:00
休業日：水曜日·第2·4木曜日



城北本店は2018年より
「ヤマハアドバンスディーラー」認定店です。

静岡

KAWASHIMA MOTORS

六間道路グランプリ

History ～六間道路を駆け抜けたオートバイと周辺の年表

和暦	西暦	出来事	世相
昭和31年	1956年	第4回富士登山レースでヤマハYA-1が125ccクラス1位~8位独占優勝。250ccクラスでもYC1が1位~5位独占優勝。 浜松オートレース場開設。	神武景気。
昭和32年	1957年	第2回浅間火山レースでヤマハYA Racerが125ccクラスで優勝。250ccクラスでもYD Racerが1位~3位を独占。 丸正自動車、東京に丸正ビルを落成、本社を移転。	なべ底不景気始まる。
昭和33年	1958年	丸正自動車、ライラックYF-5（242cc）を発売。 ヤマハ、YS1が国産オートバイ初のグッドデザイン賞受賞。 ホンダ、ヤマハ、スズキから続々と中間排気量のオートバイが発売される。	東京タワー完成。
昭和34年	1959年	北川自動車工業がヤマハに吸収合併される。 丸正自動車、独特のVツインエンジン搭載のランサーシリーズを発売。 ホンダ、マン島TTレースに初出場。 ホンダ、アメリカンホンダモーターをロサンゼルスに開設。	マイカーブーム始まる。
昭和35年	1960年	スズキ、マン島TTレースに初出場。 日本の二輪生産台数が世界一になる。	安保闘争。
昭和36年	1961年	ホンダ、マン島TTレース参戦3年目にして悲願の優勝。 丸正自動車、倒産。	交通戦争。
昭和37年	1962年	スズキ、マン島TTレース50ccクラスで初優勝。 丸正自動車、ホンダの協力を仰ぎ和議申請が成立。	鈴鹿サーキット完成。 スモッグ発生。
昭和38年	1963年	スズキ、伊藤光夫 マン島TTレース50ccクラスで日本人初優勝。 丸正自動車、生産再開に伴い水平対向500ccの大型車、R92を発売。 鈴鹿サーキットで日本初の世界GPロードレース大会開催。ホンダが50cc·125cc·250ccクラスで優勝。	
昭和39年	1964年	丸正自動車工業が社名変更して株式会社ライラックに。 鈴鹿18時間耐久オートバイレース開催。 ヤマハ、世界GPロードレース250ccクラス初のメーカーチャンピオンに。	東京オリンピック開催。
昭和40年	1965年	スズキ、竜洋にテストコース建設。 高速道路でのヘルメット着用義務化と二人乗り禁止。	イザナギ景気。
昭和41年	1966年	富士スピードウェイ開業。 株式会社ライラック事業閉鎖、解散する。 ホンダ、二輪車世界選手権GPレースで史上初の5種目メーカーチャンピオン獲得。	






写真提供：赤堀俊彦氏（浜松市在住）

盛者必衰の理。淘汰されていったメーカー。そして国内3大メーカーが残った。

川嶋氏は14歳から3年間大阪の自転車の卸業者で働き、17歳で浜松に帰った頃には、オートバイの形も性能も世界の水準に随分近づいてきていた。

軍需製品であるプロペラを作っていたことから、工場を接収されていた日本楽器製造（のちにヤマハ発動機として分社）が、接収解除後、オートバイの製造に乗り出し、戦前から自動車製造を模索していた鈴木織機（のちの鈴木自動車工業）も浜松市内から隣接する可美村に移転。エンジン付き自転車のパワーフリー号を好調に売り上げ、本格的オートバイ「コレダ号」を発表する。

川島自転車は改築後、川島モータースとしてオートバイの扱いがメインのお店となった。当時はさまざまなメーカーともミッション系のトラブルが多く、修理が忙しかったと川嶋氏は振り返る。

「中でもすぐ近くに工場があった、丸正さんのライラックは修理が難しかったですね。作りが独特だったからね。」

日本国内各地でオートバイの草レースが行われ、浅間火山レースや富士登山レースでもメーカーの意地をかけた熾烈な戦いが繰り広げられた。

「この辺でも小学校の校庭でトラックレースをやったり、オートバイのレースが盛り上がってました。レースに出るオートバイの整備もたくさんしましたよ。オーバルコースを走る浜松オートの車両なんかも整備してました。」

六間道路発のオートバイメーカーは、本田は全国展開を目指して本社を東京に移し、丸正自動車のライラックは国内レースにも参加して成績を上げ、新車を続々と発表していたが、経営破綻で姿を消した。独自の路線で人気のあった北川自動車工業は、ヤマハに吸収合併される。

「丸正さんが潰れちゃってからは、六間道路での試験走行はどこもやらなくなっちゃったんじゃないかな。」

しかし、ホンダ、ヤマハ、スズキと日本のオートバイ4大メーカーのうち実に3社が浜松から生まれ、大きく育っていったのだ。

浜松のオートバイの黎明期に立ち会えた幸運。

家業のおかげでオートバイに深く関わり、六間道路沿いで育ったからこそ、浜松の、強いては日本のオートバイの黎明期に立ち会えたことは、幸運だったと川嶋氏は語る。

「浜松の焼け野原をバタバタいって走ってたのが、世界で愛されるようなオートバイになっていった。誕生から成長を間近で感じられたんですから幸せでした。しかも生活の糧だったわけだしね。」

現在は会長として一歩引いたところからオートバイ業界を見守る川嶋氏。だが、オートバイが好きな気持ちや、六間道路を駆け抜けた数々の名車の思い出は色あせることはないだろう。

社員が自ら積極的に行動して、「新しい何か」を見つけ出せれば一番いい。

2016年、株式会社デイトナの3代目社長に就任した織田哲司氏。バイクの楽しみ方が進化し多様化する時代に、新たな挑戦を続けるデイトナの今と未来を検証する。

自らが考え、行動し、成果を上げる文化を。

織田氏がバイクと出会ったのは高校1年のとき。原付免許取得が許された学校で、誕生日順に免許を取っていく友人たちに影響され、16歳の誕生日を迎えるとすぐ免許を取得した。初めてのバイクはGT50。オンロードモデルを数台乗り継ぎ、最初にデイトナに入社したのは1983年、当時乗っていたCB750FCにはデイトナ製スタビライザーを取り付けていた。ハローワークでデイトナの開発者募集があり、入社したのは必然であった。入社時は社員9名ほどの小所帯。入社すると中村専務（当時）から「君に与える仕事は用意していないよ。今持っている力で社内を見て、自分ができる仕事を見つけなさい」と言われた。「自ら考え、行動し、成果をあげる」これは創業から今に続くデイトナの社是であり伝統である。ここから織田氏のデイトナでの奮闘が始まった。

末永くバイクライフを楽しんでもらうために。

これまでデイトナは、時代ごとに変化するユーザーの求めるパーツを世に送り出してきた。創業～80年代前半はアメリカンパーツやヨーロピアンと言われた中型スポーツのカスタムパーツ。その後、阿部社長（当時）の発案で、年に1ジャンル以上の商品群が企画され、プロジェクトチームで商品開発。性能パーツやメンテナンスと商品ジャンルが増えていく。以後90年代～2007年までは、アメリカン・TW・ビッグスクーターブームとともに国内事業が成長した。2008年のリーマンショック後、組織変更で開発から間接部門に移動した織田氏は、当時を振り返ってこう語る。「リーマンショックから3年間、業績を立て直すために会社は大変な時期でした。私は間接的な部署で、会社のコアコンピタンス（圧倒的な強み）を強化する仕事につき、デイトナと市場を客観的にみる時間ができました。ライダーの集まる場所に通い、ライダーやバイクを観察。話を聞いていくうちに、なんとなく今後の方向性が見えるようになりました。」間接部門での3年間は、その後の織田氏の考え方に大きな影響を与えた。2010年に再び二輪事業部の仕事に戻り、2012年に二輪事業部長、2016年に代表取締役に就任した。

現在、第3次バイクブームとも言われるバイク業界だが、織田氏の見方は論理的で冷静だ。「10年ほど前はバイク人口の減少が話題でしたが、バイクの登録台数をみると、減少しているのは原付2輪が多いことに気づきます。小・中・大型バイクの登録台数はそれほど変わっていない。今バイク購入の中心層は55歳ですが、20代の若いライダーも着実に増えています。さらに数年はリターンライダーが増えるでしょう。今後も増えるライダーたちが、ずっとバイクライフを楽しんでもらうために、デイトナができることはまだまだあると思っています。」



普段から社内を精力的に回り、社員に声を掛ける。事業の方針は打ち出すが、その後は社員の自主性を尊重する。



キャンプすることでわかったことがたくさんある。

ソロキャンプを趣味と公言し、年中キャンプを楽しむ織田氏。お子さんが小さいころは家族でキャンプに出掛けていたが、その後はしばらくキャンプから離れていた。

10年ほど前、新たに道具を揃えようと首都圏でも有数のアウトドアショップを訪れた。ショップスタッフに「バイクに積める大きさのテントは？」と尋ね、これならと勧められた商品を購入。いざバイクに積もうとすると、ケースから数センチはみ出て積めないという経験をした。さらに自身でキャンプを楽しみながら、2輪と4輪のユーザー比率を観察したり、キャンプ道具の使い勝手を実際に身をもって

株式会社デイトナ
代表取締役社長
織田哲司
TETSUJI ODA
1961年生まれ。長年開発現場を担当し、2016年に3代目社長に就任。「すぐやる」ことを信条とし、社員とともにデイトナの更なる発展に注力する。日頃からキャンプを楽しむ織田氏の提案で、メイン写真はキャンプシーンでの一コマを使用した。

検証した。「今はキャンプ道具が市場に山ほど溢れている。キャンプ経験のある自分でも、何を選べば良いか迷ってしまうほど。キャンプ初心者のライダーは尚更困るだろう。だったら、デイトナがツーリング向けのキャンプ道具を作れば、ライダーから喜ばれるのでは」と考えた。すぐに開発の指示を出したが、1年間は動きがなかった。やはり自分が主体的に動かねばと、自身でメーカーに連絡を取り、ツーリングテント開発の段取りをつけた。そこから社内の動きは早く、2018年にツーリングテント・スティシーST-2として商品化。バイク業界では先駆けとなり、さまざまな商品の開発を見据え「デイトナアウトドアサプライ」としてブランド化した。

ひと口にキャンプと言っても、4輪に乗るファミリー層とライダーでは、道具に求める機能が変わってくる。デイトナ社内には織田氏以外にもキャンプを楽しむ社員が多数いる。社員たちは実際にキャンプツーリングで、テーブルと椅子の高さや角度を細かく検討。さらに背もたれの高さもハイバックからミドルバックへと改良。積載性と拡張性を選べるシステムバックの開発など、ライダー専用と言える商品群へと発展させた。



手に入れたばかりの愛車BMW F750GSでコースを疾走する。
愛車について話すときが、一番饒舌で嬉しそうであった。

ここからまた挑戦の歴史が始まる。

近年デイトナは二輪パーツ開発という枠組みを超えて、時代の変化を見据えながら、さまざまな領域に挑戦の場を広げている。

中古バイクパーツ売買のスマートフォンアプリ「ブンブン!マーケット」。小型汎用エンジンを活用した「除雪機事業」。リンク式サスペンションを備えた「耕運機DS2S」などが、その代表である。

「ブンブン!マーケット」は、社内プロジェクトの中から若手社員の発案を新規事業として採用した。「発案を事業化する過程では、社外のノウハウも活用。7割程度の確証を得てGOサインを出しました。新規事業はやってみないとわからないこともあります。途中の軌道修正は想定内ぐらいの気持ちでしたが、今は軌道に乗りつつあります。若手社員が主体的に動き、結果を出してくれたこと。これが何より嬉しく、大きな財産だと思います。」

2021年には「耕運機DC2S」がグッドデザイン賞を受賞。これも耕運機という新たなジャンルへの挑戦を大きく後押しする推進力となるはずである。織田氏が経営で重視する「企業が永続発展するために、今、何にチャレンジしておくべきか?」という問いかけに、確実に社内は答えを出し続けている。

対する興味は、きっと今後も尽きることはない。



開発の現場で若手社員に混じってバイク談義。何気ない会話の中でアドバイスやヒントを与え、若手からの自主的な提案にも柔軟に耳を傾ける。



社長に就任するまでは、季節・天候に関わらずバイクで通勤していた。
走ることが大好きで、機会があれば今でもバイクで出社する。

五十年という節目に。

2021年、デイトナはブランドマネージャーを新設した。これまで商品ジャンル別のグループ制を導入してきた同社。お客様のニーズを予知し、企画・開発・販売へと一直線に並ぶグループ制は、ユーザーが求めるスピーディな商品開発を可能にし、他社が真似できないアイテム数の新製品で常にライダーのニーズに応えてきた。しかし、縦割りの組織では、他のグループの動向が見えにくく、織田氏は社内全体をつなとして捉えるポジションが必要と感じていた。組織を俯瞰して見れるブランドマネージャーにより、時にはグループを超えて、スタッフの長所を生かせる仕事を任せることが可能となる。今後のデイトナの発展に大きな武器となることであろう。

2022年に創業50周年を迎えるデイトナ。大きな節目を迎えるタイミングで今後の展望を尋ねてみた。

「50年後のことは、私も生きていないから分かりません(笑)。今言えることは、今後も二輪事業を主軸としてライダーに末長く楽しんでもらえるよう、時代にマッチした新商品開発を続けていきます。さらに事業分野を「趣味」や「生きがい」まで広げ、二輪事業に匹敵するような柱を作りたいと思います。そのための布石は色々と打っています。デイトナは、自分で考えて行動する社員とともに、ずっと前を向いて進んでいきます。」

力強く答えてくれた織田氏の言葉に、未来へ向けて走り続けるライダーの姿を見ることができた。

これまでの50年と、これからの50年。バイクに







耕運機、バイク専用フリーマーケットアプリ、ツーリングキャンプ用品など、従来の二輪パーツメーカーという枠を広げ、ライフスタイルを豊かにする新しい取り組みを続けている。



Let's Enjoy Together!

RENTAL BIKE

Mochizuki Motors

バイクで気軽に遠州を満喫しよう！

おすすめスポットへガイド役のリードライダーが同行。
本田宗一郎ものづくり伝承館・スズキ歴史館といった企業施設から、
弁天島・舘山寺・天竜のワインディングなどの自然を楽しめるコース、
歴史遺跡・絶景ポイント・グルメまでをサポートします。

※リードライダーは希望制です。

PARK&RIDE

駐車場完備。車で来店、レンタルバイクで浜松を楽しんで、車で帰路へ。

レンタル車両：中型／スティード400、GSR400　小型／TW200、FORZA250

借りて安心
3つのポイント

- **リーズナブル** 懐かしの中古車を格安レンタル
- **誰でも気軽に** リターンライダー歓迎！手ぶらでOK！
- **安全に楽しめる** おすすめポイントをガイド

からっKAZE RIDEツアー ★ 宿泊・レストランなどの提携はスプリームトラベルで受付中

お車のこと、なんでもご相談ください。・新車販売 ・車検整備 ・中古車販売 ・板金塗装 ・保険 ・レンタカー

株式会社 望月自動車商会

浜松市東区神立町124-2　TEL.053-463-7775
営業時間：サービス／8：30~17：30 ショールーム／8：30~18：30
https://mochizukijidousha.hamazo.tv/



遠州の銘品

株式会社鈴木楽器製作所　スズキメロディオン



メロディオンは鈴木楽器製作所創業者、鈴木萬司が音階教育が容易にできるような鍵盤楽器を目指し完成させたものである。メロディオンが発売された1961年当時、小学校での音楽教育はオルガンやハーモニカを使った授業が主であったが、オルガンは高価であり、ハーモニカでは音階教育がむずかしかった。以来、鈴木楽器製作所では、教育現場に寄り添い改良を重ね、多くの小学生が持ち歩くことができるメロディオンの発売に至ったのである。近年では、その音色も評価され、多くのミュージシャンにも使われるようになり、大人の楽器としてもさまざまなバリエーションが発売されている。

株式会社鈴木楽器製作所
浜松市中区領家2-25-7
ホームページURL
https://www.suzuki-music.co.jp

MELODION 60th ANNIVERSARY LIMITED MODELS
メロディオン誕生60周年記念 限定モデル
上からPRO-37V3 SR シャイニングレッド、PRO-37V3 SG シャイニンググリーン、PRO-37V3 SY シャイニングイエロー
各モデル共に数量限定 オープンプライス

神と呼ばれるエンジニアが提唱する新しいライブ音楽の楽しみ方「SSM」とは？

サイレント ストリート ミュージック

雑音や騒音の悩みを解消できる新しい演奏方法の提案

TR-808といえば「やおや」の愛称で、世界の電子楽器シーンで今なお愛され続けるリズムマシンだ。

その時代を追い越した存在は、1980年の発売から三年間の販売期間には評価されず、10年近く後になってクラブシーンの隆盛に伴い、リバイバル評価され、実機は現在でも中古市場で高値で取引されている。

グラミー賞を受賞した国際標準規格「MIDI」設立の核となったローランド創設者・梯郁太郎氏の下で、この伝説ともいえるマシン「808」を生み出し、数々の傑作電子楽器を手がけてきたのが菊本忠男氏である。

電子楽器のエンジニアたちにとっては「神」と呼ばれる存在の菊本氏が、今精力的に取り組んでいるのがSSM（Silent Street Music）という新しい音楽の楽しみ方の普及だ。

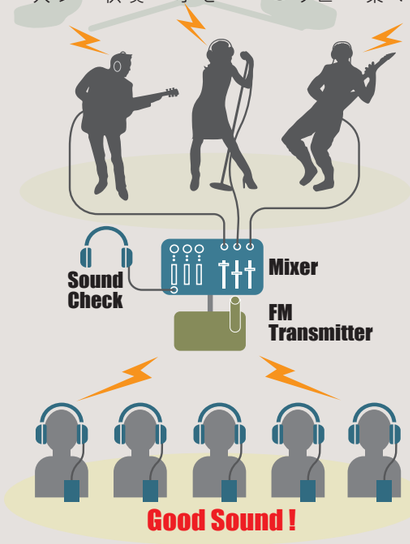
これは、演奏する各楽器の音、ボーカルを一旦ミキサーに集約・整音し、FMの電波に乗せて発信。それをオーディエンスはFMラジオで受信し、ヘッドホンで楽しむというもの。

プレイヤーもヘッドホンで自分たちの演奏をモニターでき、どんなバランスで音を提供できているかを確認しながら演奏する。

オーディエンスもプレイヤーもヘッドホンで音を聴くことで、より音楽に集中でき、没入感が高まる。そして、通常のライブや野外演奏では、スピーカーからの距離によって左右される音質も、電波が届く範囲なら均一の品質で提供できる。

また、外に出る音は、楽器と歌声の生音のみとなるので、特にストリートライブにつきものの、演奏に支障が出るような周囲の雑音や騒音、演奏音への近隣の住民やお店からの苦情と言った問題もクリアできる。

このシステムの発案のきっかけを菊本氏にうかがった。

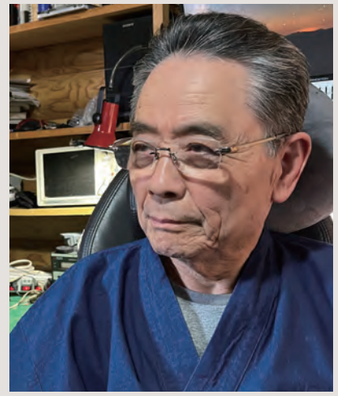


◀SSMはFMトランスミッターと受信機、ヘッドフォンを使ったミニFM放送のシステムをシンプルに構築する









Profile

1941年大阪生まれ。日本のトランジスタ技術の草分け的なエンジニアの一人。1977年ローランド入社。プロジェクトP-8セクションのリーダーとしてTR-808・TR-909・TB-303などを開発。世界的通信規格「MIDI」制定にも関わる。代表取締役社長を経て、現在もSSMの情報発信をはじめ、ロボット工学、DSP研究者として活動する現役エンジニア。趣味のバイクはハーレーを乗り継ぎ、現在はTR-808カラーのマグナ250改が愛車。

Tadao Kikumoto

菊本忠男

SILENT STREET MUSIC



SSMを使って広場で複数の演奏を同時進行するイメージ図

モノづくりからコトづくりへ誰もが楽しめる仕組みを作りたい

「アメリカで開催される世界最大規模の楽器ショー『NAMM Show』の視察に行ったときの事です。大手楽器メーカーが大きなブースで派手なデモンストレーションをする中、一坪ほどのスペースで、楽器の音を聴かせるヘッドホンをいくつかぶら下げてデモをしているブースがあったんです。周りの音を気にせず聴かせたい音を伝えるには凄くいい方法だと感心しました。これをライブの演奏を聴く方法として、ワイヤレスでシステムを作れないかと考えたのが始まりです。ずっと楽器関係の開発をして来たんですが、モノづくりからコトづくりというか、たくさんの人が楽しめる仕組みをつくりたかったんです」。

発案してから30年、ローランドを退職後、後述のBluetooth技術の進歩を見越してアイデアをまとめ、音楽関係、技術関係に提案した。しかし、ヘッドホンや送・受信機の提供の問題などでなかなか理解を得られなかった。そこで賛同者を募り、さまざまな音楽イベントでその有用性をデモしてきた。

実際にSSMを体験すると、プレイヤーもオーディエンスも、その音質の良さと没入感に驚くという。

昨年はコロナ禍で思うようにライブイベントを楽しめない中、SSMのシステムを応用し、車の中からライブを楽しむ「ドライブインライブ」の運営に協力。

今夏には、SSMを使ったライブイベントを開催。オープンスペースに別々の周波数を割り当てた3つの演奏スペースを設け、10組のプレーヤーが演奏した。



2021年7月に開催された「昭和フェス2021」



2020年11月に開催された「ドライブインライブ

SSMは、まだまだ実験段階Bluetoothの進化がカギ

1999年に規格が制定されたBluetooth。菊本氏は、その初期段階から1対1の通信だけでなく、1対多数の通信が可能なブロードキャストモードの必要性を提言してきた。

昨年発表された「LE Audio」の仕様では、20年の時を経てやっとブロードキャストにも対応となり、2024年頃には機器やアプリが充実し、一般に広がると予想されている。

その「ブロードキャスト・オーディオ」機能は、台数制限なくオーディオデバイスに音声を伝送できる。範囲内であればどのデバイスでも参加できる設定と、定められたパスキーを入力したデバイスのみが参加できる設定を選べるという、まさに音楽ライブにぴったりの仕様だ。

誰もが次世代のBluetoothイヤホンを携行、装着する時代になればスマホの通話やAI人工知能との会話だけでなく、例えば演劇、映画、国際会議、観光案内、テーマパークなどで多言語放送ができる。また、多数の出展者が同時にそれぞれの聴衆に向けて放送するエキスポや、各種展示会などで迫力のあるサウンドを提供することが可能となる。

SSMへの応用では、多数の演奏者が同時に多数の聴衆にベストの音を届けることができ、音楽夜店や音楽ノミの市をどこでも開催することができるようになるだろう。

「例えば広い劇場で、後ろの席から舞台を見るのにオペラグラスを使うように、聴覚を補完して聞きたい音だけをクローズアップするとか、難聴者の補聴だけでなく、健常者の聴覚補強が可能になると思います。いわばAAR（Augmented Audio Reality）音の拡張現実ですね。そんな新しい分野の一翼をSSMが担っていけたらと考えています」。

常に先の技術を見据えてきた菊本氏。

ライブ音楽を新しいカタチで楽しむための技術が、SSMの掲げる理想にやっと追いついてきた。

音の拡張現実の世界AARの時代が来る

※1AR（拡張現実）・※2VR（仮想現実）の技術の進歩は、ここ数年で加速し、一般の生活の中に浸透してきている。特にARのスマホのカメラをかざすと、そこにないはずのものが見えたり、文字情報が現れたりといったサービスはすでに身近な存在となっている。

今は視覚的な効果を狙ったものが主流だが、今後「音」に関してもその世界は広がると菊本氏は考えている。

SSM（サイレント・ストリート・ミュージック）は、ヘッドホンを使った自由な音楽イベントの新しいカタチです。

- SSMで、ストリートライブにつきものの雑音や騒音の悩みを解消
- SSMで、複数のミュージックパフォーマンスを同時進行
- SSMは、ストリートミュージック以外にも応用が可能



SSM推進委員会

システム・セッティングなど詳細はこちらのURLでご確認いただけます。

https://silentstreetmusic.jimdofree.com/

https://www.facebook.com/silent-street-music-336108703567536/

※1 AR=「Augmented Reality」の略で、「拡張現実」と訳される。 ※2 VR=「Virtual Reality」の略で、「人工現実感」や「仮想現実」と訳される。








Original Goods for Yourself

ざいまかなきぶん

運営：株式会社リレイズ
〒430-0906 浜松市中区住吉4丁目15-7
Tel : 053-416-4155 Fax : 053-416-4156
Mail : info@reraise-works.com

instagram

RADIO

Lunch & Motorcycle BUZZY BUDDY



全国1万社以上の神社を参拝した神社巡拝家・佐々木優太と浜松市天王町でバイク乗りのおもてなしを続ける大歳神社 権禰宜・石津紀祥がパーソナリティを務めるラジオ番組が誕生。「美味しいもの」「バイク」「神社」という3大「楽しさ」をテーマに、浜松を「聴く・食す・巡る」ランチタイムの新プログラム!

Lunch & Motorcycle BUZZY BUDDY
FM Haro! 76.1MHz
放送時間:毎月第4木曜日11:00~12:00
https://www.ootoshi-jinja.or.jp

BOOKS

神社センサー ～ライダーが見つけた!幸せの最強ツール



ツーリング好きの著者は、バイクで走行中に頭の中で小さな光が点滅するような体験をする。その点滅は自分とのご縁がある神社を教えてくれていることに気づき、この感知機能を「神社センサー」と名づける。五感を使って走るライダーはこのセンサーが開花しやすいことをヒントに、誰でも神社センサーが使えるようになる方法を解説。神社の神様とのご縁の結び方やそのご加護を活用する方法を追求するため、現在もバイクで神社参拝を継続中!

著者:神社ライダー　高林広明
ソフトカバー169ページ　¥1,540
みらいパブリッシング刊　書店・amazonサイトで販売中

RENTAL BIKE

気軽に借りられるレンタルバイクで 遠州を旅しよう



遠州を気軽に旅できるレンタルバイクサービスが登場。車両は中型がスティードとGSR400、小型がFORZA250とTW200と人気の中古車で手頃な価格。旅行会社とタイアップしたツーリングツアー「からっKAZE RIDE」は先導車が安全運転をサポートし、遠州をぐるっと堪能できる。リターンライダーも安心して参加できる。

望月自動車商会
浜松市東区神立町124-2　TEL.053-463-7775
https://mochizukijidousha.hamazo.tv/

SHOP & CAFE

バイクと出逢うための本屋さん 「本と、珈琲と、ときどきバイク。」







掛川市にオープンした小さな本屋さん。店主は元バイクメーカーのプロダクトデザイナー。バイクを知らない方に向け「好奇心、感受性、美意識」をくすぐる本を置き、そこからイメージを膨らませてバイクへとたどり着くような出逢いを目指している。カフェでは桜木駅近くから惜しまれつつ富士宮に移転した自家焙煎珈琲豆シロネコのブレンドを扱う。さくらぎブレンドは地元の駅名がついたおすすめの一杯。

本と、珈琲と、ときどきバイク。
掛川市富部150−7
営業時間:11:00~20:00　定休日:木曜日
https://enrich-moto.stores.jp/

NEWS

スズキ【クーポ】がグッドデザイン金賞を受賞。





スズキの活動支援モビリティ「KUPO／クーポ」が、2021年度グッドデザイン金賞を受賞した。押して歩ける「歩行モード」と、歩き疲れた時の「乗車モード」に可変して、一つの商品で行動範囲の拡大と健康維持をかなえる電動パーソナルモビリティ。できれば自分の足で歩きたいが長距離は辛いという方の気持ちに寄り添う姿勢とスタイリッシュなデザイン性が高く評価された。

スズキ株式会社
https://www.suzuki.co.jp

★DEATH FIGHT★

MUMBLES
www.mumbles.jp
SAILOR JERRY . MOONEYES
TIKI MUG . RATFINK . BAND-T . etc
CLOSE : WEDNESDAY

MUMBLES

DONGURI
SHOKUDOU

いらっしゃいませ
どんぐり食堂
水曜定休

お好み焼き・焼きそば・ナポリタン
たません・おうちカレー・シフォンケーキ
８：００～１８：００　水曜定休です。
住所：浜松市南区中田島町１０２３－１

★お持ち帰りできます★

STINK 2021

★DREAM MATCH★

備えあれば憂いなし。ツーリングに役立つ「防災ライダー～100のテクニック」をエンシュージアスト読者10名様にプレゼント。



普段はバイクを楽しむ極意として、いざという時には自分と大切な人を守る護身術として。ライダーが読んで面白く、知って役立つ情報が満載のハンドブックを読者10名にプレゼント。

応募方法:
Facebook・メール・ハガキで、住所・氏名・本誌の感想と「防災ライダー希望」を明記してご応募ください。
Facebook：https://www.facebook.com/Enshusiast
メール：info@key-w.com
ハガキ:
〒430-0928
浜松市中区板屋町101-22 小川ビル3F-5
(有)キーウエストクリエイティブ
エンシュージアスト編集部

地元の「浜松の安心野菜」を試してみて。旬の野菜BOXを5名様にプレゼント。



おとなりさんちでは「子どもが安心して、おいしく食べられる」そんな想いを込めて、浜松のこだわりの農家さんが作った新鮮な野菜を厳選し、ご自宅までお届けするサービス「旬の野菜BOX」を展開。その野菜の美味しさを体感してもらいたくて、Sサイズを抽選で5名様に無料でお届けします。
ハガキにて、住所・氏名・本誌の感想と「おとなりさんち希望」を明記してご応募ください。締め切りは2022年3月末日、当選は発送をもって替えさせていただきます。
〒430-0928 静岡県浜松市中区板屋町101-22 小川ビル3F-5
(有)キーウエストクリエイティブ　エンシュージアスト編集部

オンラインショップ　おとなりさんち
https://otonarisanchi.shop-pro.jp/
株式会社秀商おとなりさんち事業部
浜松市南区卸本町32　TEL.053-441-0185

ツインズ平松の ドはドーナツのド



イラスト:わたたく

音楽マニアの双子の弟、ツインズ平松が贈る謎のコラム。
音楽産業がノリにノッていた昭和の時代にしか発売し得なかった珍盤・奇盤（ようするにゲテモノ）レコードを毎回紹介していきます。
※編集部注：次回があるとは限りません

みなさんこんにちは。
今回紹介するレコードは1967年（昭和42年）に津軽三味線の名手である三橋美智也と、和製エレキギターの第一人者、寺内タケシが世紀の大競演（異種格闘技？）をしたドーナツ盤です。
A面が両者とも十八番の「津軽じょんがら節」。B面はロシア民謡の大有名曲「黒い瞳」というナイスなカップリング。バックの演奏は寺内タケシのバンドであるバニーズが担当しています。
文字情報だけではどんなことになってしまうか全く予測不能ですが、レコードに針を落として聞いてみると両者とも熱いソロをぶつけ合うものの決して曲としてのバランスは失われず美智也の三味線もタケシのエレキギターに負けないプレイで実に聴き応えのある仕上がりになっています。
これはぜひとも動画サイトなどを検索することをお勧めします。
寺内タケシは茨城県出身ですが、ないものは自分で作ってしまうという遠州で言うところの「やらまいか精神」が旺盛な人で、家の電話機の部品を拡声器につなぎ自作でエレキギターを『発明』したり、日本楽器（現ヤマハ）に自ら作成した設計図を持ち込んでエレクトーンの開発を依頼したりするなど、ギターの演奏以外にも後世に大きな影響を残しています。
1965年ごろにアメリカの音楽雑誌上にチェット・アトキンス、レス・ポールと並んで世界三大ギタリストとして紹介され、若かりし頃のジェフ・ベックも寺内タケシのギター奏法を研究していたとのことです。
惜しくも今年の6月に亡くなられてしまいましたが、このような背景を踏まえながらぜひ一度演奏を聴いてみてください。火を吹くようなギターは度肝を抜かれますよ。



SKC しんしろカートコース

バイク、ミニバイク、ポケバイ、レーシングカート、レンタルカート、ゴーカートサーキット

● 初心者、未成年、無免許練習も歓迎。● ライセンス不要、会員制度はありません。

〒441-1338 愛知県新城市一鍬田（ひとくわだ）宇赤座入55
東名三ヶ日インターチェンジより約20分。新東名新城インターチェンジより約20分。
営業時間：午前の部：9:00-12:00　午後の部：12:00-17:00
定休日：毎週木曜日（ご予約、貸切走行は受け付けます）
TEL：0536-29-4458

https://www.facebook.com/j4126

Roads like Chords

なかなか進まない旅・VOL.1



Photo: Ayami Takei

「バイク乗りには鉄道好きが多い」とどこかの記事で読んだことがある。かくいう私も鉄道が好きでバイク乗りだ。一見両者は相いれない感じがするかもしれないが私には良くわかる。

最も共通する要素はもちろん「旅」だろう。典型的な文脈が「小・中学生のころ鉄道に興味を持ち青春18きっぷでの鈍行旅を始め、高校生になり日本中をふらつくが、そのうち線路わきで見かけた漁村などに寄り道したくなり、気軽に立ち止まれるバイクに目が行く…」という流れだ。

しかしどうしても自分の興味の志向がそれだけでは説明がつかなかったのだが、ふとあることに気が付いた。それはどうやら私の関心が「長いもの」に向いている傾向があるということだ。鉄道車両はバイクや車などに比べれば「長い」。他に好きなものを並べると船、それも巡洋艦。細長い。広角レンズより望遠レンズが長くてかっこいい。スキー・スノーボードは長いほうが見た目が堂々として滑りもおおらか。延々と続く単調なジャーマン・テクノ・ミュージック、いつ終わるのか。短距離より長距離移動。近くの風景よりも双眼鏡で遠くを見るのが好き…。自分のバイクも80年代のもの、今日のバイクより明らかに「長い」。

長いものは同時に「単調」でもある。規則的なレールのジョイント音。眠気を誘うような高速道路の継ぎ目をたたくタイヤの音。同じフレーズが繰り返し続く音楽。人によってはこれらを「退屈なもの」と言うかもしれない。でも一方で微かではあるが確実に変化している何か、例えばゆっくりと力強く昇ってくる朝日、道路わきに書かれた終点への距離、微妙に変化する音色やトーン。長くて単調であるがゆえにわずかな、でも間違いなく存在する変化が際立ってくる。

今のバイク、私には何か物足りない。おそらくそれは「短い」からだ。デザインのテイストは時代ごとに変わるし、ホイールベースが短いからこその乗り方もあるだろう。それはその時代ごとに楽しめばいい。でも長さが短いとバイクとの付き合いも短くなりそうで自分には心もとないし、なにより「単調さの中の微妙な変化」を楽しめなくなる気がする。

私は今所有している「長くて古いバイク」との付き合いが20年以上になるが、これからも「永〜く」乗り続けるだろう。首と腕が痛くて仕方がないけれども。ああ、ハンドルが遠い…。



竹井 邦浩 Kunihiro Takei

某大手楽器メーカー製品デザイナー。いつもモノを変な角度から見ようとするスケベな習性をもつ。
商品を創り売るべき立場でありながら自身はなかなかモノを買い替えない不届きもの。

乗り物と素材とそのほかの話　Vol.5

リターンライダーの気持ち

店舗をGSビル北側に移転しました。
以前の場所には新しい仲間のGSジムが入っています。
当店は一本北の道沿いになります。



山本 雄一郎

やまもとゆういちろう・1985年生まれ・大手発動機メーカー勤務後、老舗自転車店にて修行。その後独立し、現在は自転車店「Green Cog」店主。バイクも大好きで最近 XSR155 を購入。

エンシュージアスト読者の皆様こんにちは。南区の自転車屋です。

いきなりですが懺悔いたします。

私この度、エンシュージアストを読んでいるうちにバイク熱が再燃してしまい、10年ぶりにバイクを所有することにしました。

手に入れたのはヤマハのXSR155という、タイで生産している小排気量ネイキッドバイクです。これが、小さいエンジンなのに車格は250ccクラス並で、排気量や気筒数に不相応な高回転でパワフルなエンジンを搭載していて凄く楽しいんです。

そして驚くほど燃費が良い。街乗りでもリッターあたり40キロを下回ることはまずありません。155ccなのでバイパスや高速道路も走れるので、とても便利です。

私は自転車はもちろん、乗り物全般が大好きで、元々メーカーに勤めていた人間でもあるので、実はオートバイも大好きだったりします。

同じ二輪車ですし、それぞれ違った特性もありますし、どちらかしか乗らない読者の皆様には、ぜひ両方ともチャレンジしていただきたいと切に願います。

そうは言いつつ、やはり本腰は自転車な訳で、約10年オートバイから遠ざかっていました。



そして10年ぶりにオートバイを買って走って感じたのは「想像以上の進化」でした。車体の装備や重量など含めて驚くほど乗りやすく、快適になったなと。

まずヘッドライトがLEDになったので、車格に関係なく周囲を照らしてくれるので、夜間走行の快適性が格段に上がっていると感じました。そしてインジェクションによるエンジンの安定感、安心感。少し低速でトンつく感じはキャブ車には無かった特性ですが、スターターボタンをチョンと押してすぐにかかるエンジンは快適そのものです。

そしてETC。「下道派」の方には関係のない話にはなってしまいますが、キャンプツーリング目的の私にはこれも大きな進化の一つと感じました。タンクバッグ等からカードや財布を取り出すとか、予め小銭を用意するとか、そんな面倒から解放されるとは！想像以上に快適な装備にすっかり満足です。

ここ最近、東南アジア向けの小排気量のホットモデルが次々と発表されていて、一部国内にも並行輸入などで入ってきています。国内仕様として販売したら大ヒットしそうなモデルがたくさんありますが、なぜか並行輸入なんですよね（苦笑）。

車両価格は手頃ですが、先述の通りとてもよく出来た車体で快適ですので、私のようなリターンライダーの皆様にオススメしたいですね。

樽林の日常写飯 ～熱いものは熱いうちにf8～ Vol.5

ご飯撮影はお早めに



樽林 武俊

くればやしたけとし・フォトグラファー
1980年生まれ。実家は父の代からの町の写真屋さんで、幼少の頃からカメラを玩具代わりに育つ。お仕事とは別にライフワークとして『毎日（というほどでもない）ポートレート』を撮り続けている。

お疲れ様です。相変わらず油断のできない日常が続いておりますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

毎回このエンシュージアストが発行されますのが秋近辺ということで、今回も御多分に洩れず軽い食欲をもよおしながら原稿をしたためております。さっき妻に隠れてポテチ（コーンポタージュ味）を食べ終わりました。

さて前回いよいよブツ撮り編に突入ということで、今回はその中でも難易度の高い「食べ物」の撮影について語っていこうと思います。



そもそも何故ゆえ「食べ物」撮影が難しいかと言いますと、秒単位でその様相が変わっていくからなのです。

ラーメン、蕎麦など汁物を思い浮かべて頂きたい。さあ食べようと思って箸をつけた途端、仕事の電話がかかってくる…5分、10分、離れてご覧なさい。あっという間にあの美味しそうだった醤油ラーメンが伸びに伸び切ってちょっとしたクリーチャーになっている…なんてことよくありますよね。またアイスなどの冷たいものも然りです。

とにかくスピード勝負！着丼してからセットなんてもっての外。着丼する1時間前からベストなライティングを組み、空のお皿をお借りしてアングルを決め、ホワイトバランスを含めたカメラの設定し身構えてなければならないのです。そして丼が机に着くか着かないかくらいで爆撮、でなければ本当に美味しそうなカットは撮れないのです。

最近は色鮮やかだったりボリューミーだったりと、見た目にも気を遣ってくださる飲食店さんも多く、料理そのものに何か手を加えることは少なくなりましたが（ツヤ出しでみりん塗ったりドライアイスで湯気出したり）、そうなっても美味しそうに見せるために、とにかく素早く撮る！という ことはこれからも変わらない料理撮影の鉄則であり続けるのでしょうね……。

あ～～お腹減った。

最近思った事、ずっと思ってる事。 Vol.5

数万円で始める宝探し



芳松 鎮

よしまつおさむ・1973年製・2016年12月、超思い切って脱サラし浜松市南区にGSバーガーを開業。金のかかる趣味ばかりで、結婚してからは仙人のような生活をしております。

新型コロナウイルスがなかなか終息を見せてくれない感じですが、皆さまは元気にお過ごしでしょうか？

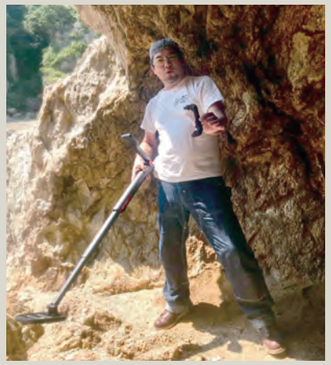
自粛疲れもあるでしょうが、ストレスが溜まり、ネット上でも攻撃的なコメントを多くみかけるようになってきました。

そんな時代だからこそ大らかにほんわかできるお話です。

自分には今も続いている趣味、お金がかかり過ぎたり時間が無くて長期お休みしている趣味などなど色々とあります。

若い頃は～というか、独身の頃は命をかけて一生懸命遊んでおりましたので、まぁ色々とやってきましたが、仕事を含めた生活環境の変化や年齢的に無理があったり・・そんなこんなで、予算はお小遣い程度の数万円で何か新しくおもろい事出来ないかなぁっと、思いついて購入したのが、金属探知機です。

金属探知機で何するの？って言う方も多いと思いますが、自分がやりたいのは東海道や姫街道、塩の道等の古道での、江戸時代の旅人の落とし物探しです。



何度かチャレンジしましたが、江戸時代のキセルの頭とか彫金用と思われるタガネ等を拾いました。他には現代のモノでもかなり年代物の缶飲料のゴミ等、興味深いモノも多数。基本ゴミ拾いにもなるので、一石二鳥ってヤツです。

万が一ですが、小判とか明らかに金銭的価値がありそうなモノは警察に拾得物として届けますが、そんなのを探し当てたいですね。

いつかは純銀製の延べキセルやら日本刀関係のモノをと、夢は膨らみますが、問題がありまず。この手の旧街道やらは、いわゆる心霊スポットとされてるとこがめちゃくちゃ多いんです。

こんな趣味に付き合ってくれる心の広い方はそんなにいませんので基本一人なんですが、一瞬でもおっかないと思ったら気味が悪くてその日は終了です。

うーん、満足にこの趣味を全うするには精神も鍛えなければいけないですな。

探索していいのかいけないのかは役所なんかに聞かないと分かりませんが、精神を鍛え上げたら長篠の古戦場辺りでもチャレンジしてみたいです。そして、いつかは金属探知機で出てきたお宝？ゴミ？展を開催したいなぁ。

金属探知機遊びやってみたいとか、やってますとか、情報交換できる方がいましたら、暇そうな時間のGSバーガーにフラッと遊びに来てくださいね（笑）。

女はそれを我慢できない　Vol.2

直子流「Z世代」人材育成方法なんちゃって



岡本 直子

おかもとなおこ・デリシャスキッチン店主・1987年生まれ・浜松市内のイタリアンレストランの店長を経て、GSビル裏で定食屋を開業。趣味はカボエイラと特に汚れた靴をきれいに洗うこと。

「しらけ」や「氷河期」、「さとり」といった世代分けをされたら、「ゆとり」世代1年目の私。

社会人初心者の頃は「これだからゆとりは！」と、ご指導いただくことも多々・・。でも、私だって小学校低学年までは土曜日学校に行ってたし、体操服もブルマーだったし、カラオケで必ず歌う曲は『部屋とYシャツと私』です。調べると太文字で「1年間でもゆとり教育を受けていればゆとり世代です」と何故か重要マークされています。でも、私は二人の姉の影響からか、ゆとり教育だった感は希薄でした。



きっと他の世代の方々は、「新人類はクズ！」だの、「バブル世代はボンコツ！」だの、いろんなレッテルを貼られてきたのだろうに。そんな方々も私からしたら、キラキラした時代を生きてきた羨ましい大人なのです。何よりも自由で自分の大切な趣味や意思を持って過ごしているのが格好良い。私の未来もそうでありたいと日々オトナ観察中です。

最近の若者世代は「Z世代」。デジタルネイティブで社会問題への意識が高く、金銭やキャリアには保守的。しかし起業家精神は高い。生まれながらにして完璧！大人な感じがする！そんな子たちと、私達ゆとりが一緒に働く時代がちょっと前に訪れてきました。きっと沢山の方が人材育成に悩まされているのでは？

私も7～8年前に初めて大きな壁にぶち当たりました。同じように指導しても全く伝わってなくて事柄が進まない。同じ失敗を繰り返してしまう。当時は「理解できない子が悪い！」と思ってましたが、今では新人を活かせない、私達大人の責任が大きいんだと実感。もっとほかのやり方があったのではっと反省することも多くなりました。そんな日々を経て、私の中で生み出した育成方法をひとつふたつ。

①失敗の思い出を共有していく。

これは最近多い、失敗を恐れて受動的になってしまう若者を救う大作戦。仕事を振っても、勉強してきたことをうまく発揮できなかったり、パニックになってしまったり…。しかし先輩が一緒に彼らとあえて失敗してみたらどうだろうか？二人だと不安だったことにだって向きあえる。知識は大事だけど、実際に色々やってみなきゃわからないじゃんね！

②彼らを否定せず、肯定第一。

以前勤めていた会社の社訓で好きだったところ。仕事を教える時って「そうじゃなくて…」っていう彼らを否定してしまうことが多いのです。だから「そのやり方も凄く良いけどもっと良くするには…」とか「それも有りだね！」とか、まずは彼らを受け入れる必要があると思います。

それは私達が、新しい風を取り込むチャンスなのかもしれない・・って書きながら私はどっぷり「ゆとり思考なのでは？」と、今気づいたのである。そんな私に今でも会いに来てくれる、一緒に働いてきた子たちにビックラブー＆サンキュー！

From Editors 編集後記のような話

明日に向かって撃て!

物心ついた頃から雑誌が好きで、趣味の音楽やバイク、ファッションやトレンドなどの情報はいつも雑誌から得ていた。今はネットで一発検索できるもの、例えばギターを一本選ぶにしても、当時は楽器店でもらってきたカタログを枕元で眺めながら妄想をふくらましつつ、果てしない旅を続けた末に自分なりの着地点を見つけたものだった。やがて大人になり、グラフィックデザイナーとして、雑誌やカタログといった紙媒体に今度は「作り手」として関わることができるようになったことは、ある意味必然であり、とても幸せなことだと思う。もちろん「エンシュージアスト」を創刊したこともその延長であり、自分自身の使命ではないかと感じている。年に一回という超スローペースながら、不動のメンバーで第5号を発行できたことは、あの頃に似た「達成感」がある。今後は(CNの実現に向けた)ガソリンエンジン同様に紙媒体も衰退していくだろう。しかしそれらを悲観することはない。感動の度合はその時代に歩調を合わせながら、自分なりに決めていけばいい。大事なのは期せずして得られた物や事に、今どれだけ「熱中」できるか。むしろ(ネットでは検索できないような)明日は多少ぼやけていた方が「今」を存分に楽しむことができるのかもしれない。



山さん山川

エンシュージアスト編集発行人。(有)キーウエスト クリエイティブ代表。5年前に家庭菜園を始めてから、土と草と虫にやたら詳しくなった。「芋と豆は裏切らない」を信条に、オレンジ色の耕うん機で今日も明日に向かって耕し続ける昭和40年男。

サウンド・オブ・ミュージック

これまで、バイクが持つ魅力の中で「音」は譲れない部分だと思っていた。アクセルをひねる右手の感覚に比例して高まるエキゾーストノートが、まるで動物の咆哮のように聞こえ、峠を駆けるとき、その響きに心をザワザワさせられた。昔は仲間がマフラーを変えると「イイ音してるね〜」と、その「音」を褒めあったり、「音」が変わる=快感性能が増すように錯覚していた。それがどうだろう。この10年ほどで、自分の中で「音」に対する価値観が変わってきたように感じる。これまでかっこ良いと思っていた大きな音に、却って疲れを感じるようになってきた(歳のせいかは知らないが)。「音」だけではなく、「速く走ること=スピード」に絶対的な価値を感じなくなっている自分にも気がついた。「人より速く」から「人と共に」へと自分の価値観が変わったのだと思う。先日、知人のバイクショップで「最近は『静かなオートバイってありますか?』と何人かのお客さんから聞かれることがあった。時代が変わったのかね〜。」という話を聞いた。この本を作っていて、レジェンドたちから「社会におけるバイクの存在価値」について、貴重な意見を聞くことができている。そんな訳もあり、最近は89年製のノーマルに近い状態のバイクで楽しんでいる。



テキサス大沼

エンシュージアスト編集長。20代よりシングル・ツインのバイクを乗り継いで、最近手に入れた89年製R100RSとともに、遠州の気になる場所に出没している。

未知との遭遇

初春、知人からメダカをもらったので以前から興味があったアクアリウムを始めた。今まで水槽の掃除が大変だと思い込んで躊躇していたが、調べたら週一で水槽の1/3ぐらいの水を入れ替えるだけでいいらしく、一気に飼育へのハードルが下がった。早速ホームセンターで少し大きめの水槽とポンプ、彩りに水草や流木、メダカだけだと寂しいのでヤマトヌマエビとシマカノコガイを買ってきて、あーでもないこーでもないと水槽内のレイアウトを考える。自分が考えたレイアウトを自由に動き回るメダカやヤマトヌマエビを見て癒される。コロナ需要でメダカが流行っていると聞いたのは飼い始めてしばらく経ってからだ。バイク・楽器演奏・キャンプ、思えばコロナが原因で流行ったモノはエンシュージアストで取り上げるテーマに沿ったモノばかりだ。今まで旅行や交友費に使っていた時間とお金が趣味に流れたと素人考えで思うのだが、自分の好きなモノがこんなカタチで流行るのは若干複雑な気持ちになる。しかし、これを機に新しい世界の魅力を知って夢中になり、ずっと続けてく趣味になってくれればとも思う。なんて考えながらヤマトヌマエビが小さなハサミでツムツム餌を食べてるのを眺め今日も僕は気づいたら1時間ぐらい水槽の前にいる。



ドン・サハラ

エンシュージアスト デザイナー&エディター。西アフリカのジャンベとブラジルのサンバ、そして日本のサザンをライフワークにしている太鼓野郎。愛車はH-D XL883N。エンシュージアスト特攻隊長として、重い体を引きづりながら西へ東へ突撃取材します。

イージーライダー

梅雨から夏、引き籠っているうちに季節が変わっていた。日中の陽射しはまだ暑さの余韻を残していても、風は確実に色を変えている。バイクで走るとその匂いさえ違って感じる。通勤の必要が無いリモートワーク中は、バイク通勤の俺は、バイクに乗る時間がめっきり減った。通勤以外の時間に、普段いかにバイクに乗っていなかったかを実感した。そんなこともあって、ここのところ一人で出かける時には極力バイクを使うようにしている。今回のエンシュージアストの取材では、リモート明けのタイミングで、編集部のメンバー4人で一緒にカフェをめぐるショートツーリングをする機会があった。取材先にお邪魔しながらの100kmほどの道のりだったが、久しぶりの感覚で楽しかった。誰かと一緒に走るなんて、何年ぶりだったろう。バイクはやっぱり面白い。いじっても、乗っても、時間を忘れて楽しめる。一昨年前に手に入れたおんぼろDトラッカーも、なんだかんだで快調に動いてくれるいい相棒だ。俺は来年還暦を迎える。幸い今の所、まだしばらくは現役ライダーで居られそうだ。この後、ライダーを卒業するまで乗れる相棒を考えるのも楽しい。来年は赤いちゃんちゃんこならぬ、赤いスカジャンで編集後記に登場したい。



アジトイシヅカ

編集部内のマルチスィーパー。デザインはもちろん文章からカメラ、イラストまで担当。FRP加工から革、銀、粘土など素材を問わずアナログなモノづくりが趣味。GoProをバイクにつけて、夜の街を流しながら撮影するのが最近の楽しみ。



協力：ROBANOMIMI

Friendly Shops

The EnshuSiast Magazineは記載のショップにて配布しています。

浜松市中区
- 印度カレー mana 053-458-1773
- オフィスヒット 053-489-3470
- CUSTOM FEVER 053-455-6755
- カフェレストランざぼん 053-441-9820
- 自家焙煎珈琲店 鴨江珈琲 053-571-2759
- 川島モータース本店 053-471-2543
- 川島モータース元浜店 053-478-0877
- くれいじーママ 053-473-7955
- ざいまかなきぶん 053-416-4155
- smoker planet 053-528-7077
- Sonix 053-476-6688
- Sol y Sombra 053-450-5770
- タイラレーシング 053-437-2125
- TSUBAKI AUDIO 053-471-8181
- HighMeal 053-525-9552
- バランスデザイン 053-482-7415
- 喫茶店ヒコウビラン 053-440-8008
- Piste HAIR DESIGN 053-489-3336
- ビストロ・ヒルマン
- PLATERO 053-456-2957
- 古橋商会 053-453-5985
- PRECIOUS JUNK 053-455-5625
- ヘアーアトリエ・キートス 0120-416-429
- POPS倶楽部 053-525-7383
- ホンダドリーム浜松 053-412-6330
- 本の王国 ザザシティ浜松店 053-528-7014
- MUMBLES 053-420-0728
- ヤマハミュージックリテイリング 浜松店 053-454-4111
- Live House浜松窓枠 053-451-3035
- ROBANOMIMI 053-471-0022
- YSP浜松 053-465-4545

浜松市東区
- SWEN浜松店 053-411-5133
- art tool／アートツール 053-422-7765
- アニー コーヒー 053-581-9777
- アビーロード 053-467-0533
- オートプラザドリーム 053-411-0819
- オグショー 053-421-0122
- 音楽天国 浜松市野店 053-462-1059
- スズキワールド浜松 053-464-8198
- Stockガレージ 053-570-5827
- Tickle 053-467-0160

浜松市東区
- トライアンフ浜松 053-422-6711
- ナイストゥハブ 053-568-2229
- 南海部品浜松店 053-463-0111
- ハーレーダビッドソン浜松 053-466-3210
- Huge Motorcycles 053-411-8334
- HYOD PLUS浜松 053-465-8282
- フロントロー 053-468-1661
- PePe Motorcycles 053-581-7685
- 望月自動車商会 053-463-7775
- 遊楽民 053-571-0703

浜松市西区
- カワサキ プラザ浜松 053-415-1177
- KUSHITANI CAFE 舘山寺 053-523-9169
- コーヒー・ブラックバード 053-486-0365
- DATZ浜松 053-486-1200
- PARKWOOD 61 BURGERS 053-488-4016
- 福ちゃん 坪井店 053-449-5555
- 福ちゃん 舞阪店 053-596-3019
- ライダースカフェはまなこ 053-596-3770
- リアンディ 053-489-8000

浜松市南区
- いろどり屋 053-482-9809
- A-Café 090-9120-7400
- カマラド・ガラージュ 053-426-2830
- ガレージ トッポリーノ 053-444-1230
- KUSHITANI浜松本店 053-443-1819
- Green Cog 053-441-4250
- GS BURGER 090-8544-5356
- GiL HAIR&SHAVING 053-548-6454
- デリシャスキッチン 090-6023-9800
- ドゥカティ浜松 053-411-8880
- TRANSIT COFFEE ROASTERS 080-9496-3336
- どんぐり食堂 053-444-1233
- MotoService EDGE 053-424-8586
- モトレスキューフクダ 053-443-7846
- Rachel 053-589-5927

浜松市北区
- オリエンタル雑貨+カフェ Ora 053-543-1670

浜松市北区
- 蔵茶房なつめ 053-524-2525
- グラニーズ 053-525-2202
- CAKE & CAFE BLISS 053-525-2424
- サンマリノ 053-523-1185
- 炭火焼肉 三愛 053-525-1229
- 太鼓屋JALI 053-523-2986
- T-flow 053-526-0806
- 長坂養蜂場 053-524-1183
- HORSESHOE-BEND 053-525-9985
- 本の王国 ラフレ書店 053-488-9619
- Riders Cafe CAROLWAY 053-548-5290
- WATTS 053-526-2261

浜松市浜北区
- YSP浜北大橋 053-586-6860

浜松市天竜区
- Spiral 053-925-6001
- トンネルカフェ 090-2264-0173
- 本田宗一郎ものづくり伝承館 053-477-4664
- マイルストーン 053-923-1250

磐田市
- クロスオーディオ 0538-32-1023
- ダイナオガレージ 0538-55-6655
- 和食処 なかや 0539-62-2061
- KNOTT'S BERRY FARM 0538-35-7003
- 美容室 カモミール 0539-62-6077
- 兵藤楽器磐田店 0538-37-0354
- モトガレージ ベッカク 0538-38-9094
- ライダーハウスKEN 0538-66-7645
- カフェ レッドローズ 0538-74-1454

袋井市
- Café & Bakery げんらく 0538-23-0141
- koti by Luomu 0538-48-5522
- JUNK MASTER 0538-84-7996
- SWEN袋井店 0538-41-2155
- 兵藤楽器袋井ミュージックセンター 0538-42-2037
- めがね工房FUJITA 0538-23-8912
- RIDER'S 0538-43-6005
- YSP袋井 0538-43-4646

遠州森町
- アクティ森 0538-85-0115

掛川市
- 大石農場ハム工房 0537-48-5618
- Kakegawa U.S.A. Village 0537-64-6002
- café PIT 090-2344-6611
- しばちゃんランチマーケット 090-2342-2725
- ならここキャンプ場 0537-25-2055
- 本と、珈琲と、ときどきバイク 080-6364-1872
- MAX'S DINER 0534-64-6003
- Rise Burger 0537-29-6613
- LEFTY BOND 0537-26-9068

菊川市
- アイアンクラフト 0537-26-9900

御前崎市
- Cookhouse椿 0537-86-7150
- コピポット(KOPIPOT) 0548-63-6620
- パシフィックカフェ御前崎 0548-63-1100

湖西市
- アオゾラカフェベイス 053-579-3985
- J.Diner KAMACHI 053-523-7393
- 杉浦タイヤ商会 053-594-1728
- はまなこ みんなのカフェ 053-578-3888
- BONZO COFFE 053-528-7686

愛知県豊橋市
- 福ちゃん 大岩店 0532-43-0787
- 福ちゃん 二川本店 0532-41-7019

東三河地区
- しんしろカートコース 0536-29-4458
- バイクサポートFTW 0532-88-6011
- バイクショップZAPPER 0532-32-7576
- FULL HOUSE 0532-35-6684



福ちゃん 二川本店
住所:豊橋市雲谷町川通り23-70
TEL:0532-41-7019

福ちゃん 大岩店
住所:豊橋市大岩町東畑69-2
TEL:0532-43-0787

福ちゃん 舞阪店
住所:浜松市西区舞阪町浜田479
TEL:053-596-3019

福ちゃん 坪井店
住所:浜松市西区坪井町4383-2
TEL:053-449-5555

※メニュー写真はイメージです。器、盛りつけは写真と異なる場合がございます。ご了承ください。 ※福ちゃんでは各店舗ごと創意工夫し、味・内容・値段等が異なります。ご理解ください。

ウラハマ外伝 喫茶ゆるはま vol.7

文：ドン・サハラ
絵：わたたく

浜松市内の一角にある、知る人ぞ知る隠れ喫茶「喫茶ゆるはま」には、昭和の時代から遠州の喫茶文化を見続けてきた名物マスターと地元を愛する常連客ドンさんが、遠州の喫茶文化について毎日雑談しています。



常連客ドンさん
「喫茶ゆるはま」の常連客。喫茶店が大好きで、遠州地域の喫茶店に足しげく通い、マスターに話を聞いてもらいにくる変わり者。

マスター
昭和の高度成長期から浜松市で「喫茶ゆるはま」を営んでいる名物マスター。遠州地域の喫茶文化に造詣が深い。寡黙だが人の話を聞くのが上手。

名車と珈琲とケーキとエンスーと

カランコロン…
マスター（以下マ）：いらっしゃい。
ドンさん（以下ド）：おう、マスター　いつものね。
マ：はい。いつものブレンドね。ドンさん、格好良いジャケット着てるね～。
ド：さすがマスター。気づくのが早いね。昨日、新しくできたクシタニのお店に行ってきて、思わず一目惚れしちゃったんだよ。
マ：スタイリッシュな外観のお店が中田島街道沿いにオープンしたんだ？　ね。早速行ってきたんだ？
ド：そうそう、それでね、その後に寄った喫茶店が面白くってさ。お店の中に渋い車がドーンと展示してあったんだよ。マスター知ってる？
マ：中田島街道沿いと言えば「MAGAZINE」さんだね。
ド：昨日はプリンス・スカイラインGT-Bが展示してあったよ。珍しかったからマスターに聞いたら、知り合いから展示用に借りてるらしくて、他にも色々エンスーな車を借りられる時は展示してるんだって。
マ：バイクを展示してあるお店はたまにあるけど、車一台置いてあるのは凄いよね。あそこのマスターは相当なエンスーだよ。愛車は確か1964って聞いたことがあったな。
ド：お店に写真があったなー。昔の英国車はなんか品があるよな。
マ：僕もバイクだけど古い英国車に乗ってるから共感できるね。「MAGAZINE」のマスターはとにかく趣味を楽しんでいる人を応援しているんだよ。ちなみに店名の「MAGAZINE」は雑誌って意味で、雑誌って趣味系の本が多いでしょ。転じて、趣味を楽しんでいる人が集まる場所になれば良いと思って名付けたみたいだよ。
ド：そうなんだ、雰囲気が歴史がある感じだったけどいつから営業してるんだろう？
マ：確か、昭和62年創業だから、34年前だね。バブル真っ只中でチェーン店は無くて、あちこちに面白い喫茶店ができてた頃だね。
ド：そんな昔からやってるんだ。知らなかったなー。
マ：その頃出来た喫茶店の大半は残念ながら閉めちゃってるね。以前、本人から聞いた事があるけど、マスターの信念は『潰れない』事だって言ってたな。続けられるように時代に合わせて変化していく事が大事だって。
ド：そうなんだよな。折角見つけた好きなお店が無くなるのは客側からしたらショックだしな。
マ：自分のこだわりを横に置いておいて臨機応変にお店を変化させるのはなかなかできる事じゃないよね。
ド：頑固一徹なのも考えものだね～。
マ：常駐のパティシエがいて、リーズナブルで美味しくて美しいケーキを提供するのも時代に合わせての変化なんだろね。
ド：そういえば女性のお客さん、ケーキ食べながら車を眺めてたな～。格好良い車は性別関係なく皆んな眺めて楽しいものなんだな。
マ：車以外にも、ギャラリーとして絵を飾ったり、ライブをしたり、羊毛フェルトの教室をしたり、多岐にわたって色んな趣味人が老若男女集まるみたいだね。
ド：同じ趣味嗜好の人が自然と集まれるお店っていいよな。今度行ったら評判のケーキも何個か頼んじゃおうかな。
マ：ドンさん。食べすぎて折角買ったジャケット着れなくなっても知らないよ。



MAGAZINE
浜松市南区中田島町 529-1
TEL/053-442-1551
営業時間/9:00～
定休日/ 水



Revs Your Heart



Rev —— エンジンの回転を上げるように。
心躍る瞬間、そして最高の体験を、
YAMAHAと出会うすべての人へ届けたい。

私たちヤマハ発動機は、
イノベーションへの情熱を胸に、
お客様の期待を超える感動の創造に
挑戦しつづけます。

YAMAHA

global.yamaha-motor.com/jp/

感動創造企業
ヤマハ発動機株式会社

EnshuSiast

The EnshuSiast Magazine/Vol.5　2021年11月30日発行
発行｜有限会社キーウエストクリエイティブ　〒430-0928　静岡県浜松市中区板屋町 101-22小川ビル 3F-5　エンシュージアスト編集部

本誌に記載されている記事、写真等の無断掲載、複写、転載を禁じます。

Printed in Enshu